

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 15 日

授業対象学科：航空工学科整備工学専攻

授業科目名：航空機システム工学部

授業担当者（代表者）名：久保 敏宝

所属：航空工学科整備工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	5.0	4.0	課題に対しての「気付き」が重点となるような授業を実施する。
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	解りやすい資料の作成・配布に努力する。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	オンとオフのメリハリのある授業計画を立案する。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	更に、情熱と誠意のある授業となるよう努力する。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	パワー・ポイントでの授業と実習を重点とする。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	それぞれの理解度を確認しながら授業を進める。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	⑤⑩同様、教材の見直しを図る。
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	実習も踏まえ、グループ・ワーキング形式の環境を整える。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	国家試験へ向け、自己学習の必要性について指導する。
全体評価 ⑯	5.0	4.0	現在の授業体制の中で、結果の見える授業、達成感及び満足度の高い授業となるような環境づくりに努力する。

登録者数 = 7 名： 受験者数 A = 7 名： 単位取得者数 B = 7 名： 比率 (B/A) = 100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

二等航空運航整備士資格試験、合格率 100%を目指す。それには、自己学習による知識の向上また、考える力、説明能力を身に付ける必要がある為、それらを、修得させるべく教材、資料、実習内容等更に、充実する必要があると考える。



授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月2日

授業対象学科：全クラス

授業科目名：基礎物理(Aクラス)

授業担当者（代表者）名：古川 靖

所属：航空

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.15	4.0	より具体的に指導したい。
内容の理解度 ⑤	3.50	4.0	反応のある学生は理解しているという反応をするが、反応のない学生の中に理解していない学生もいると認識した。
授業時間 ⑦	4.46	4.0	現状を維持したい。
担当者の熱意 ⑧	4.15	4.0	現状を維持したい。
板書・教材 ⑩	4.08	4.0	現状を維持したい。
理解への配慮 ⑪	3.88	4.0	反応のない学生への働きかけを検討したい。
伝える工夫 ⑬	3.90	4.0	より分かりやすさを追求したい。
アクティブな機会 ⑭	2.38	4.0	教科の性質上、基礎訓練的な面が大きいのでなかなか難しいが、検討したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.63	4.0	能動的なものを要求する課題を考えたい。
全体評価 ⑯	3.75	4.0	上記の改善により向上させたい。

登録者数=89名： 受験者数 A=78名： 単位取得者数 B=78名： 比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

わかりやすさを重視してほしいという要望があったので、そうしたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 2 日

授業対象学科：航空・機械

授業科目名：システム工学

授業担当者（代表者）名：古川 靖

所属：航空

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	5.00	4.0	現状を維持したい。
内容の理解度 ⑤	3.60	4.0	より分かりやすさを優先させたい。
授業時間 ⑦	4.60	4.0	現状を維持したい。
担当者の熱意 ⑧	4.40	4.0	現状を維持したい。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	現状を維持したい。
理解への配慮 ⑪	3.40	4.0	より確認をとるようにしたい。
伝える工夫 ⑬	4.80	4.0	現状を維持したい。
アクティブな機会 ⑭	4.46	4.0	現状を維持したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	現状を維持したい。
全体評価 ⑯	4.00	4.0	現状を維持したい。

登録者数=11名：受験者数 A=10名：単位取得者数 B=10名：比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 17 日

授業対象学科：TA

授業科目名：航空宇宙材料

授業担当者（代表者）名：高口 裕芝 所属：航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.60	4.0	目標を達成している。今後も復習課題を課すことを継続して行くが、アクティブラーニングの要因もより取り入れて行きたい。
内容の理解度 ⑤	3.80	4.0	目標未達である。理解をより得られ易い様にするために、図解を増やす等、工夫をしていきたい。
授業時間 ⑦	4.80	4.0	目標を達成している。
担当者の熱意 ⑧	4.80	4.0	目標を達成しているが、⑤項を改善する為に工夫をしていきたい。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	目標を達成しているが、⑤項を改善する為の工夫を考えて行きたい。
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	目標を達成しているが、⑤項を改善する為の工夫を考えて行きたい。
伝える工夫 ⑬	4.80	4.0	目標を達成しているが、⑤項を改善する為の工夫を考えて行きたい。
アクティブな機会 ⑭	3.60	4.0	目標未達である。遠隔授業においても学生が能動的に授業に取り組めるような工夫をしていきたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.00	4.0	目標を達成しているが、遠隔授業においても学生が能動的に取り組めるような工夫をしていきたい。
全体評価 ⑯	4.80	4.0	目標を達成しているが、⑤、⑭項を改善する為の工夫を考えて行きたい。

登録者数 = 9 名： 受験者数 A = 5 名： 単位取得者数 B = 5 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

全体評価は目標を達成しているが、対象学生が 1 年生であり、高校ではなじみのない教科の理解がより深まるような工夫が必要であると思う。今後は上記のようなことも念頭に入れてシラバスの充実を図って行きたい。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月17日

授業対象学科：TA

授業科目名：宇宙工学概論

授業担当者（代表者）名：高口 裕芝 所属：航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	5.00	4.0	目標を達成しているが、学生がより能動的に学べるような工夫をしていく。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	目標を達成しているが、より理解が進む工夫を考えて行く必要がある。
授業時間 ⑦	5.00	4.0	目標を達成している。
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	目標を達成しているが、⑭項を改善する為の工夫は必要である。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	目標を達成しているが、アクティブラーニングを念頭に置いた改善が必要である。
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	目標を達成しているが、遠隔授業であっても、学生の反応をより正確につかむための工夫が必要である。
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	目標を達成しているが、今後⑭項を念頭に置いた授業の工夫が必要である。
アクティブな機会 ⑭	3.00	4.0	目標未達である。遠隔授業であっても他学生と意見が交わせるような工夫が必要である。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	目標を達成しているが、遠隔授業であっても学生が能動的に学べる工夫が必要である。
全体評価 ⑯	5.00	4.0	目標を達成しているが、遠隔授業であっても⑭項を念頭に置いた工夫が必要である。

登録者数 = 6名： 受験者数 A = 1名： 単位取得者数 B = 1名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

全体評価として目標を達成しているが、今後、アクティブラーニングの要因を念頭に置いた授業の改善が必要であり、必要に応じてシラバスに反映して行く。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載して下さい。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月17日

授業対象学科：TA

授業科目名：ロケットエンジン

授業担当者（代表者）名：高口 裕芝 所属：航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.50	4.0	目標を達成しているが、今後必要とされるアクティブラーニングの要因も加味した授業のシラバスも考えて行きたい。
内容の理解度 ⑤	3.83	4.0	目標未達成である。遠隔授業においても学生が十分に理解できるよう、図・表等を工夫した内容に見直していく。
授業時間⑦	4.50	4.0	目標を達成している。
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	目標を達成しているが、今後は⑤項の改善を行うための工夫をしていく。
板書・教材 ⑩	4.67	4.0	目標を達成しているが、⑤項を改善する為の教材の工夫をしていく。
理解への配慮 ⑪	4.67	4.0	目標を達成しているが、遠隔授業においても学生の反応が見れる様なモードで授業を行う等、工夫して行きたい。
伝える工夫 ⑬	4.17	4.0	目標を達成しているが、⑤項を改善する為の工夫が必要である。
アクティブな機会 ⑭	4.33	4.0	目標を達成しているが、⑤の改善も念頭に入れて、学生がより他学生とディスカッションが可能となる様な能動的に授業に取り組めるような工夫をしたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.17	4.0	目標を達成しているが、学生がより能動的に授業に取り組めるような工夫を考えて行きたい。
全体評価 ⑯	4.33	4.0	目標を達成しているが、⑤項の改善を念頭において、学生がより能動的に授業に取り組めるような工夫が必要である。

登録者数 = 6名： 受験者数 A = 1名： 単位取得者数 B = 1名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

全体評価は目標を満たしているが、今後、⑤項の改善を図るための工夫が必要であり、必要に応じてシラバスに反映して行く。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載して下さい。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 2 日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：熱力学基礎

授業担当者（代表者）名：山本 淳二

所属：航空工学科 工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.50	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
内容の理解度 ⑤	3.63	4.0	すべてを理解する必然性はないので、特に押さえるべきポイントを明確に示し、そこだけは押さえるよう強調し伝える。
授業時間 ⑦	4.75	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
担当者の熱意 ⑧	4.25	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
板書・教材 ⑩	4.69	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
理解への配慮 ⑪	4.13	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
伝える工夫 ⑬	4.38	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
アクティブな機会 ⑭	2.50	4.0	Zoom 授業であったとしても、当てる機会を増やす、または事前に当てることを伝えた上で考えて答えられるようにする。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.69	4.0	理解できた時、さらに理解したいと言う積極的な気持ちが高まるよう、演習添削や声掛け等こころがける。
全体評価 ⑯	4.31	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。

登録者数 = 40 名：受験者数 A = 40 名：単位取得者数 B = 40 名：比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

コロナ対策により Zoom による授業を初めて実施したが、アンケート結果からすると、伝えるという意味では、それほど支障はなかったようだが、やはり意見の発表や、積極的姿勢、学生どうしでの議論、相談等になるとさらに工夫を要すると感じる。意識的に学生がしゃべる機会を増やす必要性を感じた。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 2 日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：推進工学

授業担当者（代表者）名：山本 淳二

所属：航空工学科 工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.56	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
内容の理解度 ⑤	3.75	4.0	すべてを理解する必然性はないので、特に押さえるべきポイントを明確に示し、そこだけは押さえるよう強調し伝える。
授業時間 ⑦	4.56	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
板書・教材 ⑩	4.88	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
理解への配慮 ⑪	4.75	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
伝える工夫 ⑬	4.56	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
アクティブな機会 ⑭	3.75	4.0	Zoom 授業であったとしても、当てる機会を増やす、または事前に当てることを伝えた上で考えて答えられるようにする。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.13	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
全体評価 ⑯	4.50	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。

登録者数 = 22 名：受験者数 A = 22 名：単位取得者数 B = 22 名：比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

コロナ対策により Zoom による授業を初めて実施したが、アンケート結果からすると、伝えるという意味では、それほど支障はなかったようだが、やはり意見の発表や、学生どうしでの議論、相談等になるとさらに工夫を要すると感じる。意識的に学生がしゃべる機会を増やす必要性を感じた。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 2 日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：航空設計製図

授業担当者（代表者）名：山本 淳二

所属：航空工学科 工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.80	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
内容の理解度 ⑤	3.80	4.0	主要緒元の本講義での算出法等、やや難しい部分は、細部まで理解せずとも、大筋の流れの理解が大切な旨伝える。
授業時間 ⑦	4.80	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
担当者の熱意 ⑧	4.60	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
理解への配慮 ⑪	4.80	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
伝える工夫 ⑬	4.60	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
アクティブな機会 ⑭	4.60	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.80	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。
全体評価 ⑯	4.40	4.0	できるだけ受ける側の視点に立つようにこころがける。

登録者数 = 7 名： 受験者数 A = 7 名： 単位取得者数 B = 7 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

実習部分が多い講義であったが、Zoom で実施した際には、進捗状況に個人差が大きく出るようで、やはり実習については対面が好ましいと思った。Zoom 対応が必要な場合も、Zoom 対応できる部分とできない部分をしっかり分けて実施する必要があると思う。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 24 日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：旅客機の運用

授業担当者（代表者）名：森 智徳

所属：操縦学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	5.00	4.0	
内容の理解度 ⑤	5.00	4.0	新しく学ぶアイテムは日にちをあけて最低 3 回はレビューするよう心掛けた
授業時間 ⑦	5.00	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.75	4.0	
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	オリジナル教材を使って説明 更に解説が必要なところは黒板で図に描いて実施
理解への配慮 ⑪	4.50	4.0	なるべく 前回の内容を 授業開始時に 質問した
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	オリジナル教材を使って説明 更に解説が必要なところは黒板で図に描いて実施
アクティブな機会 ⑭	4.25	4.0	授業の性質上 ディスカッションは無い ただし授業開始時に 質問し発言する機会を与えた
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	中間の小テストと最後の試験の 2 回設定することで 学習に取り組む状況を作った
全体評価 ⑯	5.00	4.0	ありがたい評価

登録者数 = 4 名： 受験者数 A = 4 名： 単位取得者数 B = 4 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：(有効アンケート 4/4)

全体的に ありがたい評価と受け止めています

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 24 日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：計器飛行方式概論

授業担当者（代表者）名：森 智徳

所属：操縦学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	5.00	4.0	
内容の理解度 ⑤	5.00	4.0	新しく学ぶアイテムは日にちをあけて最低 3 回はレビューするよう心掛けた
授業時間 ⑦	5.00	4.0	
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	オリジナル教材を使って説明 更に解説が必要なところは黒板で図に描いて実施
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	なるべく 前回の内容を 授業開始時に 質問した
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	オリジナル教材を使って説明 更に解説が必要なところは黒板で図に描いて実施
アクティブな機会 ⑭	5.00	4.0	授業の性質上 ディスカッションは無い ただし授業開始時に 質問し発言する機会を与えた
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	中間の小テストと最後の試験の 2 回設定することで 学習に取り組む状況を作った
全体評価 ⑯	5.00	4.0	ありがたい評価

登録者数 = 2 名： 受験者数 A = 2 名： 単位取得者数 B = 2 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：(有効アンケート 1/2)

全体的に ありがたい評価と受け止めています

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 24 日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：ATC プロシジャー

授業担当者（代表者）名：森 智徳

所属：操縦学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	5.00	4.0	
内容の理解度 ⑤	5.00	4.0	新しく学ぶアイテムは日にちをあけて最低 3 回はレビューするよう心掛けた
授業時間 ⑦	5.00	4.0	
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	オリジナル教材を使って説明 更に解説が必要なところは黒板で図に描いて実施
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	なるべく 前回の内容を 授業開始時に 質問した
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	オリジナル教材を使って説明 更に解説が必要なところは黒板で図に描いて実施
アクティブな機会 ⑭	5.00	4.0	授業の性質上 ディスカッションは無い ただし授業開始時に 質問し発言する機会を与えた
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	中間の小テストと最後の試験の 2 回設定することで 学習に取り組む状況を作った
全体評価 ⑯	5.00	4.0	ありがたい評価

登録者数 = 2 名： 受験者数 A = 2 名： 単位取得者数 B = 2 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：(有効アンケート 1/2)

全体的に ありがたい評価と受け止めています

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月18日

授業対象学科：航空工学

授業科目名：航空力学基礎

授業担当者（代表者）名：西川文敏

所属：航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.2	4.0	予習、復習の重要性を更に強調する。
内容の理解度 ⑤	3.3	4.0	質問、疑問点の有無を確認するとともに学生に重要点を質問し考えさせながら授業を進めたが、更に演習問題などを多く実施し、理解度を確認する。
授業時間 ⑦	4.5	4.0	現状を維持する。
担当者の熱意 ⑧	3.4	4.0	一部の学生に熱意が伝わらなかったことを真摯に受け止める。
板書・教材 ⑩	4.4	4.0	更に改善する。
理解への配慮 ⑪	3.8	4.0	質問、疑問点の有無を確認するとともに学生に重要点を質問し考えさせながら授業を進めたが、更に演習問題などを多く実施し、理解度を確認する。
伝える工夫 ⑬	3.3	4.0	更に図、写真等を活用する。
アクティブな機会 ⑭	2.5	4.0	グループ討論等、意見を発表する機会を増やす。
自ら学ぶ態度 ⑮	2.9	4.0	更に動機付けに力を入れる。
全体評価 ⑯	3.2	4.0	更に向上に努める。

登録者数 = 36名：受験者数 A = 36名：単位取得者数 B = 35名：比率 (B/A) = 97.2 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

一部の学生が真剣に授業に参加しておらず、理解不足に繋がった。これは、動機付けが不十分であり、学生に主体性を持たせることができなかつたことに起因すると考える。また、オンライン授業で学生一人ひとりに目が行き届かなかつたところがあつた。

今後、オンライン授業における学生の参加意識の向上、動機付けと演習問題の実施に更に力を入れる。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 18 日

授業対象学科：航空工学

授業科目名：救命生存法

授業担当者（代表者）名：西川文敏

所属：航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
② 自主学习指導	3.57	4.0	予習、復習の重要性を更に強調する。
⑤ 内容の理解度	4.21	4.0	質問、疑問点の有無を確認しながら授業を進めるとともに、更に学生に重要点を質問することにより理解度を確認する。
⑦ 授業時間	4.86	4.0	現状を維持する。
⑧ 担当者の熱意	4.29	4.0	一部の学生に熱意が伝わらなかったことを真摯に受け止める。
⑩ 板書・教材	4.71	4.0	更に改善する。
⑪ 理解への配慮	4.00	4.0	質問、疑問点の有無を確認しながら授業を進めるとともに、更に学生に重要点を質問することにより理解度を確認する。
⑬ 伝える工夫	3.71	4.0	更に図、写真等を活用する。
⑭ アクティブな機会	3.21	4.0	グループ討論等、意見を発表する機会を増やす。
⑮ 自ら学ぶ態度	3.21	4.0	更に動機付けに力を入れる。
⑯ 全体評価	3.86	4.0	更に向上に努める。

登録者数=40名：受験者数 A=40名：単位取得者数 B=40名：比率 (B/A) = 100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

より多くの事例を紹介するとともに、グループ討論等により考えさせる機会を増やす。また、オンライン授業で学生一人ひとりに目が行き届かなかったところがあったため、オンライン授業における学生の参加意識の向上、動機付けと演習問題の実施に更に力を入れる。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月3日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：航空気象I

授業担当者（代表者）名：島津 直史

所属：第一工業大学 航空工学部

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.8	4.0	自己評価：秀 今の教育指導法を継続
内容の理解度 ⑤	3.9	4.0	自己評価：良 授業中の質問回数を増やして理解度を確認し授業を進める。
授業時間 ⑦	4.8	4.0	自己評価：秀 現教育の時間配分を継続
担当者の熱意 ⑧	4.4	4.0	自己評価：優 引き続き熱意をもって教育にあたる。
板書・教材 ⑩	4.9	4.0	自己評価：秀 現教育のスタイルを継続
理解への配慮 ⑪	3.8	4.0	自己評価：良 授業中の質問回数を増やして理解度を確認し授業を進める。
伝える工夫 ⑬	4.4	4.0	自己評価：優 現教育法を継続
アクティブな機会 ⑭	2.3	4.0	自己評価：良 学生が意見を発言する機会を設ける。
自ら学ぶ態度 ⑮	2.9	4.0	自己評価：良 更に気象に興味をもてる内容を追加し学習意欲を醸成する。
全体評価 ⑯	4.5	4.0	自己評価：優 アンケートで判明した不足な点を改善し授業の充実を図る。

登録者数=36名：受験者数A=36名：単位取得者数B=36名：比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

「航空機は大気中を飛行するので気象状態を把握しておかないと安全な飛行はできません。それゆえ航空気象はパイロットを目指す操縦学専攻の学生には必須の科目となっています。」ということを学生に説明したうえで授業を実施。前期で履修すべき内容は概ね理解したものとする。後期の学習に向けて、さらに理解が深まるよう分かりやすい授業の実施に努めていきたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 1 7 日

授業対象学科： 航空工学科

授業科目名： コンピュータリテラシー

授業担当者（代表者）名： 野田 晋二

所属： 航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.5	4.0	
内容の理解度 ⑤	5.0	4.0	
授業時間 ⑦	5.0	4.0	
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	
アクティブな機会 ⑭	4.0	4.0	
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	
全体評価 ⑯	5.0	4.0	

登録者数=13名： 受験者数 A= 13名： 単位取得者数 B= 13名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

回答者 2 名であり、何とも言えないが
授業内容等を工夫していることで高評価を得られたように思う。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月17日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：高速気体力学

授業担当者（代表者）名：野田 晋二

所属：航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	5.0	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	
授業時間 ⑦	5.0	4.0	
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	
全体評価 ⑯	4.5	4.0	

登録者数=4名：受験者数A=4名：単位取得者数B=4名：比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業内容等を工夫していることで高評価を得られたように思う。

更なる改善を目指す。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月17日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：航空機構造

授業担当者（代表者）名：野田 晋二

所属：航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.0	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	
授業時間 ⑦	4.5	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.5	4.0	
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	
伝える工夫 ⑬	4.75	4.0	
アクティブな機会 ⑭	3.25	4.0	オンラインであり、ポイントが低くなった。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.0	4.0	同上
全体評価 ⑯	4.5	4.0	

登録者数=8名：受験者数A=8名：単位取得者数B=8名：比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

コロナ禍でのオンライン授業で、⑭⑮のポイントが低くなった。

オンラインは、まだ続くので何らかの方策が必要。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月17日

授業対象学科：航空工学科

授業科目名：機体力学基礎

授業担当者（代表者）名：野田 晋二

所属：航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.4	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.2	4.0	
授業時間 ⑦	4.4	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.0	4.0	
板書・教材 ⑩	4.6	4.0	
理解への配慮 ⑪	4.2	4.0	
伝える工夫 ⑬	4.0	4.0	
アクティブな機会 ⑭	2.8	4.0	オンラインであり、点数が低くなった。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.0	4.0	
全体評価 ⑯	3.8	4.0	

登録者数=4名：受験者数A=4名：単位取得者数B=4名：比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

オンラインであり、⑭が低い。
オンラインで実施する場合の工夫が必要。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 3 月 1 7 日

授業対象学科： 航空工学科

授業科目名： 機体力学基礎

授業担当者（代表者）名： 野田 晋二

所属： 航空工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.4	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.2	4.0	
授業時間 ⑦	4.4	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.0	4.0	
板書・教材 ⑩	4.6	4.0	
理解への配慮 ⑪	4.2	4.0	
伝える工夫 ⑬	4.0	4.0	
アクティブな機会 ⑭	2.8	4.0	オンラインであり、点数が低くなった。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.0	4.0	
全体評価 ⑯	3.8	4.0	

登録者数=4名： 受験者数 A= 4名： 単位取得者数 B= 4名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

オンラインであり、⑭が低い。

オンラインで実施する場合の工夫が必要。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19日（金）までに各学科 FD 委員宛にお送り下さい。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田）

記入年月日：令和3年 2月 20日

授業対象学科：航空工学科 航空整備工学専攻

授業科目名：機械力学基礎

授業担当者（代表者）名：高橋

所属：航空工学科 航空整備工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.80	4.0	主に航空従事者の受験対策が狙い。一方向の講義は抑え、討論や個人学習により自分自身の資料づくり、知識の定着が進むように授業を進めている。WHYの理解を強く促している。
内容の理解度 ⑤	3.80	4.0	知識をただ暗記する者と理論・理屈を徹底的に追及し深い理解を得ようとする者と両極いる。この姿勢の違いが演習の成果や理解の深さの違いに反映されている。
授業時間⑦	5.00	4.0	現行の運用を継続する。
担当者の熱意 ⑧	4.60	4.0	一定の評価は得られている。自分を管理しながら現在の状況を維持したい。
板書・教材⑩	5.00	4.0	現行の方法を継続する。
理解への配慮 ⑪	4.60	4.0	専攻の使命で、一定期間で所定のレベルに到達する必要がある、進捗が大きく劣る個人対応には限界がある。が、努力を継続する。
伝える工夫⑬	4.80	4.0	一定の評価は得られている。
アクティブな機会 ⑭	3.80	4.0	自分自身の資料作成等、アクティブな機会を与えているが高校教育までの「受け身」のスタンスから抜け出られない。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.60	4.0	資料作成、PCプログラム学習、チーム・ワーク、独学等、種々の手法で行っているが学びや受験に対し認識が甘い。
全体評価⑯	4.00	4.0	一定の評価は得られていると考える。

登録者数 = 7名： 受験者数 A = 7名： 単位取得者数 B = 7名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

どのようにすれば学生の興味を引き出してモチベーションを高め、効果的な授業が進められるのか、更なる工夫や、従前からの発想の転換が、今、私達教官に益々強く求められていると感じる。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19日（金）までに各学科 FD 委員宛にお送り下さい。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田）

記入年月日：令和3年 2月 20日

授業対象学科：航空工学科 航空整備工学専攻

授業科目名：流体力学基礎

授業担当者（代表者）名：高橋

所属：航空工学科 航空整備工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.50	4.0	主に航空従事者の受験対策が狙い。一方向の講義は抑え、討論や個人学習により自分自身の資料づくり、知識の定着が進むように授業を進めている。WHYの理解を強く促している。
内容の理解度 ⑤	5.00	4.0	知識をただ暗記する者と理論・理屈を徹底的に追及し深い理解を得ようとする者と両極いる。この姿勢の違いが演習の成果や理解の深さの違いに反映されている。
授業時間⑦	4.50	4.0	一定の評価は得られている。現行の運用を継続する。
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	一定の評価は得られている。自分を管理しながら現在の状況を維持したい。
板書・教材⑩	4.50	4.0	一定の評価は得られている。現行の方法を継続する。
理解への配慮 ⑪	4.00	4.0	想像力を必要とする科目である。違う角度からの種々の説明を織り交ぜ、理解を深める必要がある。
伝える工夫⑬	5.00	4.0	現行の方法を継続する。
アクティブな機会 ⑭	4.50	4.0	自分自身の資料作成等、アクティブな機会を与えているが高校教育までの「受け身」のスタンスから抜け出られない。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.50	4.0	資料作成、PCプログラム学習、チーム・ワーク、独学等、種々の手法で行っているが学びや受験に対し認識が甘い。
全体評価⑯	4.50	4.0	一定の評価は得られている。基本的に現行の方法を継続する。

登録者数 = 7名： 受験者数 A = 7名： 単位取得者数 B = 7名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

どのようにすれば学生の興味を引き出してモチベーションを高め、効果的な授業が進められるのか、更なる工夫や、従前からの発想の転換が、今、私達教官に益々強く求められていると感じる。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19日（金）までに各学科 FD 委員宛にお送り下さい。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田）

記入年月日：令和3年 2月 20日

授業対象学科：航空工学科 航空整備工学専攻

授業科目名：電磁気学基礎

授業担当者（代表者）名：高橋

所属：航空工学科 航空整備工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4. 3 3	4.0	主に航空従事者の受験対策が狙い。一方向の講義は抑え、討論や個人学習により自分自身の資料づくり、知識の定着が進むように授業を進めている。WHYの理解を強く促している。
内容の理解度 ⑤	4. 3 3	4.0	知識をただ暗記する者と理論・理屈を徹底的に追及し深い理解を得ようとする者と両極いる。この姿勢の違いが演習の成果や理解の深さの違いに反映されている。
授業時間⑦	5. 0 0	4.0	現行の運用を継続する。
担当者の熱意 ⑧	5. 0 0	4.0	現行の運用を継続する。
板書・教材⑩	5. 0 0	4.0	現行の方法を継続する。
理解への配慮 ⑪	5. 0 0	4.0	現行の運用を継続する。
伝える工夫⑬	5. 0 0	4.0	現行の運用を継続する。
アクティブな機会 ⑭	4. 3 3	4.0	自分自身の資料作成等、アクティブな機会を与えているが高校教育までの「受け身」のスタンスから抜け出られない。
自ら学ぶ態度 ⑮	4. 0 0	4.0	資料作成、PCプログラム学習、チーム・ワーク、独学等、種々の手法で行っているが学びや受験に対し認識が甘い。
全体評価⑯	5. 0 0	4.0	基本的に、全体を通して現行の運用を継続したいと考える。

登録者数 = 7名： 受験者数 A = 7名： 単位取得者数 B = 7名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

どのようにすれば学生の興味を引き出してモチベーションを高め、効果的な授業が進められるのか、更なる工夫や、従前からの発想の転換が、今、私達教官に益々強く求められていると感じる。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19日（金）までに各学科FD委員宛にお送り下さい。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田）

記入年月日：令和3年 2月 20日

授業対象学科：航空工学科 航空整備工学専攻

授業科目名：熱力学基礎

授業担当者（代表者）名：高橋

所属：航空工学科 航空整備工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	5.00	4.0	主に航空従事者の受験対策が狙い。一方向の講義は抑え、討論や個人学習により自分自身の資料づくり、知識の定着が進むように授業を進めている。WHYの理解を強く促している。
内容の理解度 ⑤	4.40	4.0	知識をただ暗記する者と理論・理屈を徹底的に追及し深い理解を得ようとする者と両極いる。この姿勢の違いが演習の成果や理解の深さの違いに反映されている。
授業時間⑦	4.80	4.0	一定の評価は得られている。現行の運用を継続する。
担当者の熱意 ⑧	4.80	4.0	一定の評価は得られている。自分を管理しながら現在の状況を維持したい。
板書・教材⑩	4.80	4.0	一定の評価は得られている。現行の方法を継続する。
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	現行の方法を継続する。
伝える工夫⑬	4.80	4.0	一定の評価は得られている。現行の方法を継続する。
アクティブな機会 ⑭	4.40	4.0	自分自身の資料作成等、アクティブな機会を与えているが高校教育までの「受け身」のスタンスから抜け出られない。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.80	4.0	資料作成、PCプログラム学習、チーム・ワーク、独学等、種々の手法で行っているが学びや受験に対し認識が甘い。
全体評価⑯	5.00	4.0	全体を通し、基本的に、現行の方法を継続したい。

登録者数=7名： 受験者数 A=7名： 単位取得者数 B=7名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

どのようにすれば学生の興味を引き出してモチベーションを高め、効果的な授業が進められるのか、更なる工夫や、従前からの発想の転換が、今、私達教官に益々強く求められていると感じる。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19日（金）までに各学科 FD 委員宛にお送り下さい。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田）

記入年月日：令和3年 2月 20日

授業対象学科：航空工学科 航空整備工学専攻

授業科目名：航空法 整備 I

授業担当者（代表者）名：高橋

所属：航空工学科 航空整備工学専攻

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4. 6 7	4.0	主に航空従事者の受験対策が狙い。一方向の講義は抑え、討論や個人学習により自分自身の資料づくり、知識の定着が進むように授業を進めている。WHYの理解を強く促している。
内容の理解度 ⑤	4. 3 3	4.0	知識をただ暗記する者と理論・理屈を徹底的に追及し深い理解を得ようとする者と両極いる。この姿勢の違いが演習の成果や理解の深さの違いに反映されている。
授業時間⑦	5. 0 0	4.0	現行の運用を継続する。
担当者の熱意 ⑧	5. 0 0	4.0	現行の運用を継続する。
板書・教材⑩	5. 0 0	4.0	現行の運用を継続する。
理解への配慮 ⑪	5. 0 0	4.0	現行の運用を継続する。
伝える工夫⑬	5. 0 0	4.0	現行の運用を継続する。
アクティブな機会 ⑭	5. 0 0	4.0	現行の運用を継続する。
自ら学ぶ態度 ⑮	5. 0 0	4.0	現行の運用を継続する。
全体評価⑯	4. 6 7	4.0	一定の評価は得られていると考える。

登録者数 = 7名： 受験者数 A = 7名： 単位取得者数 B = 7名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

どのようにすれば学生の興味を引き出してモチベーションを高め、効果的な授業が進められるのか、更なる工夫や、従前からの発想の転換が、今、私達教官に益々強く求められていると感じる。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月19日

授業対象学科：TE / TA

授業科目名：電子計測Ⅰ / 電子計測基礎

授業担当者（代表者）名：永石 初弘

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.60	4.0	講義前後での学習のポイントと纏めの明示が出来ていない場合があり、今後は必ず行う様にする。
内容の理解度 ⑤	3.40	4.0	評価「3」が60.0%を占める。今後、理解不足箇所を抽出する手段を講ずる。
授業時間 ⑦	4.60	4.0	適切に行っているとの評価が得られたと考え、現状維持。
担当者の熱意 ⑧	4.00	4.0	項目⑤⑩の施策の実施により、本項目の向上を目指す。
板書・教材 ⑩	3.60	4.0	遠隔授業に伴いPC上で板書を実施。その際読めない場合があると指摘有。板書を丁寧に見易くすると共に、板書に集中し過ぎない様に教材を事前配布し板書の負担を軽くする。
理解への配慮 ⑪	4.40	4.0	項目⑤を考慮し、今後理解不足箇所の抽出を行い、次回授業でそのフィードバックを行う。
伝える工夫 ⑬	3.40	4.0	項目⑩の施策により、本項目の向上を目指す。
アクティブな機会 ⑭	3.60	4.0	講義において、特別にアクティブラーニング実施の時間を設け、通常の講義においても可能な限り機会を提供する。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.20	4.0	低い評価ではないが、今後「予習・復習」に重点を置いた評価基準に見直し学習の習慣化を更に促す。
全体評価 ⑯	3.60	4.0	⑤「内容の理解度」向上を図る事で、全体評価の更なる向上を目指す。

登録者数 = 6名： 受験者数 A = 4名： 単位取得者数 B = 4名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

■内訳：合格(4)、再(0)、無資格(2※)。※：留学生

■評価基準：受講(15%)、課題演習(15%)、レポート提出(15%)、定期試験(55%)の4つの要素で総合評価。

■今後の対応：①授業内容を伝える際、板書を丁寧に見易くすると共に、板書に集中し過ぎない様に教材を事前配布し板書の負担を軽くする。

②理解不足箇所の抽出と、そのフィードバックの実施。

③「予習」と「復習」に重点を置いた評価基準に見直し、学習の習慣化を促す。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載して下さい。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月19日

授業対象学科：TE

授業科目名：応用電気回路 I

授業担当者（代表者）名：永石 初弘

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.29	4.0	講義前後での学習のポイントと纏めの明示が出来ていない場合があり、今後は必ず行う様にする。
内容の理解度 ⑤	3.21	4.0	評価「3」以下が 57.1%を占める。今後、理解不足箇所を抽出する手段を講ずる。
授業時間 ⑦	4.64	4.0	適切に行っているとの評価が得られたと考え、現状維持。
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	低い評価ではないが、項目⑤を考慮し、項目⑤⑩の施策の実施により、本項目の更なる向上を目指す。
板書・教材 ⑩	4.21	4.0	遠隔授業に伴いPC上で板書を実施。その際読めない場合があると指摘有。板書を丁寧に見易くすると共に、板書に集中し過ぎない様に教材を事前配布し板書の負担を軽くする。
理解への配慮 ⑪	4.21	4.0	低い評価ではないが、項目⑤を考慮し、今後理解不足箇所の抽出を行い、次回授業でそのフィードバックを行う。
伝える工夫 ⑬	4.21	4.0	低い評価ではないが、項目⑩の施策により、本項目の向上を目指す。
アクティブな機会 ⑭	2.93	4.0	講義において、特別にアクティブラーニング実施の時間を設け、通常の講義においても可能な限り機会を提供する。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.86	4.0	評価「3」以下が 35.7%を占める。今後「予習・復習」に重点を置いた評価基準に見直し学習の習慣化を更に促す。
全体評価 ⑯	4.00	4.0	⑤「内容の理解度」向上を図る事で、全体評価の更なる向上を目指す。

登録者数 = 14名： 受験者数 A = 10名： 単位取得者数 B = 8名： 比率 (B/A) = 80.0%

総括（自由記述に対する対応含む）：

■内訳：合格(8)、再(2)、無資格(4)。

■評価基準：受講(15%)、課題演習(15%)、レポート提出(15%)、定期試験(55%)の4つの要素で総合評価。

■今後の対応：①授業内容を伝える際、板書を丁寧に見易くすると共に、板書に集中し過ぎない様に教材を事前配布し板書の負担を軽くする。

②理解不足箇所の抽出と、そのフィードバックの実施。

③「予習」と「復習」に重点を置いた評価基準に見直し、学習の習慣化を促す。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月19日

授業対象学科：TE / TA

授業科目名：電子回路Ⅱ / 電子回路

授業担当者（代表者）名：永石 初弘

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.02	4.0	講義前後での学習のポイントと纏めの明示が出来ていない場合があり、今後は必ず行う様にする。
内容の理解度 ⑤	2.93	4.0	評価「3」以下が55.6%を占める。今後、理解不足箇所を抽出する手段を講ずる。
授業時間 ⑦	4.44	4.0	適切に行っているとの評価が得られたと考え、現状維持。
担当者の熱意 ⑧	3.87	4.0	項目⑤⑩の施策の実施により、本項目の向上を目指す。
板書・教材 ⑩	3.31	4.0	遠隔授業に伴いPC上で板書を実施。その際読めない場合があると指摘有。板書を丁寧に見易くすると共に、板書に集中し過ぎない様に教材を事前配布し板書の負担を軽くする。
理解への配慮 ⑪	3.20	4.0	項目⑤を考慮し、今後理解不足箇所の抽出を行い、次回授業でそのフィードバックを行う。
伝える工夫 ⑬	3.59	4.0	項目⑩の施策により、本項目の向上を目指す。
アクティブな機会 ⑭	2.78	4.0	講義において、特別にアクティブラーニング実施の時間を設け、通常の講義においても可能な限り機会を提供する。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.65	4.0	評価「3」以下が31.6%を占める。今後「予習・復習」に重点を置いた評価基準に見直し学習の習慣化を促す。
全体評価 ⑯	3.19	4.0	⑤「内容の理解度」向上を図る事で、全体評価の更なる向上を目指す。

登録者数 = 68名： 受験者数 A = 60名： 単位取得者数 B = 43名： 比率 (B/A) = 71.7%

総括（自由記述に対する対応含む）：

■内訳：合格(43)、再(17)、保留(2※)、無資格(6)。※：帰国の為、受験不可の為。

■評価基準：受講(15%)、課題演習(15%)、レポート提出(15%)、定期試験(55%)の4つの要素で総合評価。

■今後の対応：①授業内容を伝える際、板書を丁寧に見易くすると共に、板書に集中し過ぎない様に教材を事前配布し板書の負担を軽くする。

②理解不足箇所の抽出と、そのフィードバックの実施。

③「予習」と「復習」に重点を置いた評価基準に見直し、学習の習慣化を促す。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月19日

授業対象学科：TE

授業科目名：応用電子回路I

授業担当者（代表者）名：永石 初弘

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.95	4.0	講義前後での学習のポイントと纏めの明示が出来ていない場合があり、今後は必ず行う様にする。
内容の理解度 ⑤	2.60	4.0	今後、理解不足箇所を抽出する手段を講ずる。
授業時間 ⑦	4.25	4.0	適切に行っているとの評価が得られたと考え、現状維持。
担当者の熱意 ⑧	4.55	4.0	項目⑤⑩の施策の実施により、本項目の向上を目指す。
板書・教材 ⑩	3.85	4.0	遠隔授業に伴いPC上で板書を実施。その際読めない場合があると指摘有。板書を丁寧に見易くすると共に、板書に集中し過ぎない様に教材を事前配布し板書の負担を軽くする。
理解への配慮 ⑪	3.35	4.0	項目⑤を考慮し、今後理解不足箇所の抽出を行い、次回授業でそのフィードバックを行う。
伝える工夫 ⑬	3.35	4.0	項目⑩の施策により、本項目の向上を目指す。
アクティブな機会 ⑭	2.65	4.0	講義において、特別にアクティブラーニング実施の時間を設け、通常の講義においても可能な限り機会を提供する。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.60	4.0	評価「3」以下が3割程度を占める。今後「予習・復習」に重点を置いた評価基準に見直し学習の習慣化を促す。
全体評価 ⑯	3.20	4.0	⑤「内容の理解度」向上を図る事で、全体評価の更なる向上を目指す。

登録者数 = 33名： 受験者数 A = 26名： 単位取得者数 B = 16名： 比率 (B/A) = 61.5%

総括（自由記述に対する対応含む）：

■内訳：合格(16)、再(10)、保留(2※)、無資格(5)。※：帰国の為、受験不可の為。

■評価基準：受講(15%)、課題演習(15%)、レポート提出(15%)、定期試験(55%)の4つの要素で総合評価。

■今後の対応：①授業内容を伝える際、板書を丁寧に見易くすると共に、板書に集中し過ぎない様に教材を事前配布し板書の負担を軽くする。

②理解不足箇所の抽出と、そのフィードバックの実施。

③「予習」と「復習」に重点を置いた評価基準に見直し、学習の習慣化を促す。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月19日

授業対象学科：TE

授業科目名：電子デバイス工学I

授業担当者（代表者）名：永石 初弘

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.76	4.0	受講人数に対して、倍近い17のアンケート回答数となっており 信憑性に欠ける為、参考程度の扱いとする。
内容の理解度 ⑤	4.35	4.0	同上。
授業時間 ⑦	4.71	4.0	同上。
担当者の熱意 ⑧	4.65	4.0	同上。
板書・教材 ⑩	4.65	4.0	同上。
理解への配慮 ⑪	4.47	4.0	同上。
伝える工夫 ⑬	4.53	4.0	同上。
アクティブな機会 ⑭	4.35	4.0	同上。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.76	4.0	同上。
全体評価 ⑯	4.18	4.0	同上。

登録者数 = 10名： 受験者数 A = 9名： 単位取得者数 B = 8名： 比率 (B/A) = 88.9%

総括（自由記述に対する対応含む）：

■内訳：合格(8)、再(1)、欠席(1)、無資格(0)。

■評価基準：受講(15%)、課題演習(15%)、レポート提出(15%)、定期試験(55%)の4つの要素で総合評価。

■今後の対応：他の受講科目と同等の対応を行う。

①授業内容を伝える際、板書を丁寧に見易くすると共に、板書に集中し過ぎない様に教材を事前配布し板書の負担を軽くする。

②理解不足箇所の抽出と、そのフィードバックの実施。

③「予習」と「復習」に重点を置いた評価基準に見直し、学習の習慣化を促す。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年2月24日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：コンピュータ工学I

授業担当者（代表者）名：岡村 雅一

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.33	4.0	前回の4.24より改善されている。更に工夫を図りたい。
内容の理解度 ⑤	4.01	4.0	全く理解していない、が0%であり、難易度が高い授業であるが、改善の効果が出てきていると思う。
授業時間 ⑦	4.63	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.56	4.0	熱意についてもある程度の評価は得られていると思う。
板書・教材 ⑩	4.08	4.0	たまに板書が分からず、という意見が25%あるので、改善を図りたい。
理解への配慮 ⑪	4.30	4.0	理解への配慮が無い、という学生が2%。全ての学生に配慮するのは難しいが、工夫したい。
伝える工夫 ⑬	4.44	4.0	工夫されているという評価が殆どであった。
アクティブな機会 ⑭	3.26	4.0	オンラインで課題を出す形式ではなかなか難しいが、学生が授業に参加できるように改善を図る。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.10	4.0	評定は合格ラインであるが、自ら考える機会は全くない、と回答している学生が5%いるので、改善したい。
全体評価 ⑯	4.35	4.0	満足度が「満足」「大変満足」が殆どなので、難易度が高い授業の割には評価されていると思う。

登録者数=108名：受験者数A=98名：単位取得者数B=96名：比率(B/A)=98%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：シラバスに従い、出席点、課題、期末試験で評価した。

学習目標の達成：合格者は98%で、ほぼ全員合格している。

コンピュータの基礎的知識ではあるが、難易度が高く、できるだけ分かり易く、を心がけた成果が出てきていると考える。自主学习、アクティブラーニングについては改善の効果が出てきているので継続する。

その他：自由記述については好意的な意見が殆どであったが、出席の取り方に問題あり、という意見があったので改善を図る。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年2月24日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：デジタル回路I

授業担当者（代表者）名：岡村 雅一

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.21	4.0	毎回の講義で課題を出しているの、評価されていると思う。
内容の理解度 ⑤	4.04	4.0	全く理解していない、が0%であり、難易度が高い授業であるが、改善の効果が出てきていると思う。
授業時間 ⑦	4.38	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	熱意についてもある程度の評価は得られていると思う。
板書・教材 ⑩	4.33	4.0	教材は十分であった、という意見が殆どであるが、たまに板書が分からず、という意見もあるので更に見直す。
理解への配慮 ⑪	4.13	4.0	殆どの学生が配慮されている、という意見であった。
伝える工夫 ⑬	4.38	4.0	工夫されているという評価が殆どであった。
アクティブな機会 ⑭	3.04	4.0	授業では演習の時間も取り入れているが、moodleを使った課題であったので評価が低い。授業で復習するなど改善する。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.83	4.0	4点を超えるように、学生が興味を持てるように授業の内容を改善していく。
全体評価 ⑯	4.42	4.0	8割が、満足度が「満足」「大変満足」の評価だった。

登録者数=22名： 受験者数 A=21名： 単位取得者数 B=18名： 比率 (B/A) = 86%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：出席(15%)、毎回の課題(45%)、期末試験（40%）で評価した。

学習目標の達成：難易度の高い授業であるが、基本的な部分は理解できていると思う。教科書と演習だけの授業であるので、演習の内容、授業での復習などを通して改善を図りたい。

その他： 自由記述については、好意的な意見だけであった。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年2月24日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：組込機器応用講座 I

授業担当者（代表者）名：岡村 雅一

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.64	4.0	自主学习についての効果が出ている。
内容の理解度 ⑤	4.64	4.0	目標に達しており、良く理解できたようだ。
授業時間 ⑦	4.91	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.91	4.0	熱意についてもある程度の評価は得られていると思う。
板書・教材 ⑩	4.64	4.0	教材は十分であった、という意見が殆どであるが、若干不足しているという意見もあるので更に見直す。
理解への配慮 ⑪	4.73	4.0	理解への配慮も評価されていると思う。
伝える工夫 ⑬	4.91	4.0	工夫されているという評価が殆どであった。
アクティブな機会 ⑭	4.27	4.0	アクティブラーニングそのものの授業であるため、評価は高かった。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.91	4.0	自分で考え作る授業であるため、これも評価が高かった。
全体評価 ⑯	4.82	4.0	ほぼ全員が、満足度が「満足」「大変満足」の評価だった。

登録者数=13名： 受験者数 A=12名： 単位取得者数 B=12名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：シラバスに従い、レポートの内容+出席状況で評価した。

学習目標の達成：学生が自主的にプログラム作成+デバッグする雰囲気生まれ、かつ学生が大変満足しており、良い授業であった。今後は、更にレベルアップできるように改善していきたい。

その他： 自由記述については全て好意的な意見であった。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 18 日

授業対象学科：全学科

授業科目名：基礎物理

授業担当者（代表者）名：山田 猛矢

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.08	4.0	自主学习指導については、概ね評価が得られていると思う。
内容の理解度 ⑤	3.55	4.0	今年は教科書が難しいものになり、理解できないという学生が数名いた。来年度は学生が理解できるように、学生に向き合った丁寧な講義を心掛けたい。
授業時間 ⑦	4.43	4.0	授業時間については評価が得られていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.23	4.0	熱意については概ね評価が得られていると思う。
板書・教材 ⑩	4.75	4.0	板書については評価が得られていると思う。
理解への配慮 ⑪	4.53	4.0	理解への配慮については評価が得られていると思う。
伝える工夫 ⑬	4.40	4.0	伝える工夫についても概ね評価は得られていると思う。
アクティブな機会 ⑭	3.08	4.0	ほとんど一方的な説明と回答している学生が 10 名いたので、今後はできるだけ多くの学生が発表できる機会を確保したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.65	4.0	自ら考える機会は全くなかったという学生がいたので、積極的に学習する態度・意識が身につくよう指導していきたい。
全体評価 ⑯	4.33	4.0	概ね評価は得られていると思う。

登録者数 = 65 名：受験者数 A = 60 名：単位取得者数 B = 59 名：比率 (B/A) = 98 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：試験（80%）、出席・課題（20%）

学習目標の達成：全体評価を見ると 4.33 と概ね良かったのではないかと思います。

その他：現在、意見発表・討論の時間をほとんど与えていないので、今後は講義の中でアクティブな時間を確保していきたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 18 日

授業対象学科：TE, TM

授業科目名：電磁気学 I

授業担当者（代表者）名：山田 猛矢 所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.03	4.0	自主学习指導については、概ね評価が得られていると思う。
内容の理解度 ⑤	4.26	4.0	内容の理解度についても、概ね評価が得られていると思う。
授業時間 ⑦	4.40	4.0	授業時間についても、概ね評価が得られていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.20	4.0	熱意についても、概ね評価が得られていると思う。
板書・教材 ⑩	4.57	4.0	板書については、評価が得られていると思う。
理解への配慮 ⑪	4.34	4.0	理解への配慮については、概ね評価が得られていると思う。
伝える工夫 ⑬	4.54	4.0	伝える工夫については、評価が得られていると思う。
アクティブな機会 ⑭	3.23	4.0	ほとんど一方的な説明と回答している学生がいたので、今後はできるだけ多くの学生が発表できる機会を持ちたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.80	4.0	自ら考える機会は全くなかったという学生が 1 名いたので、積極的に学習する態度・意識が身につくよう指導していきたい。
全体評価 ⑯	4.29	4.0	概ね評価は得られていると思う。

登録者数 = 93 名： 受験者数 A = 90 名： 単位取得者数 B = 70 名： 比率 (B/A) = 78 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：試験（80%）、出席・課題（20%）

学習目標の達成：全体評価を見ると 4.29 と概ね良かったのではないかと思います。

その他：現在、意見発表・討論の時間をほとんど与えていないので、今後は講義の中でアクティブな時間を確保していきたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 18 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：応用電磁気学

授業担当者（代表者）名：山田 猛矢

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.11	4.0	自主学习指導については、概ね評価が得られていると思う。
内容の理解度 ⑤	3.67	4.0	内容を少ししか理解していないと回答している学生が 1 名いた。今後は、理解してもらえよう丁寧な説明を心掛けたい。
授業時間 ⑦	4.44	4.0	授業時間については、概ね評価が得られていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.33	4.0	熱意についても、概ね評価は得られていると思う。
板書・教材 ⑩	4.44	4.0	板書についても、概ね評価は得られていると思う。
理解への配慮 ⑪	3.78	4.0	あまり理解度に配慮していないと回答している学生が 2 名いた。今後は学生の理解度を確認しながら講義を進めたい。
伝える工夫 ⑬	4.33	4.0	伝える工夫については、概ね評価が得られていると思う。
アクティブな機会 ⑭	3.00	4.0	ほとんど一方的な説明と回答している学生がいたので、できるだけ多くの学生が発表できる機会を持ちたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.33	4.0	自ら学ぶ機会が全くなかったと回答している学生がいたので、今後は、積極的に学習できるよう指導したい。
全体評価 ⑯	4.11	4.0	概ね評価は得られていると思う。

登録者数 = 8 名： 受験者数 A = 8 名： 単位取得者数 B = 8 名： 比率 (B/A) = 100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：試験（80%）、出席・課題（20%）

学習目標の達成：講義の内容自体が非常に難しいため内容の理解度が 3.67 と低い評価となった。今後は、より理解してもらえよう丁寧な説明を心掛けたい。

その他：現在、意見発表・討論の時間をほとんど与えていないので、今後は講義の中でアクティブな時間を確保していきたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 18 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：Java プログラミング I

授業担当者（代表者）名：山田 猛矢

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	2.0	4.0	自主活動のポイントに関する指導・指示が数回しかしていないとのことなので、今後は増やしていきたい。
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	内容については、概ね評価が得られていると思う。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	授業時間については、評価が得られていると思う。
担当者の熱意 ⑧	3.0	4.0	担当者の熱意に対しては、少し感じるとのことだったので、今後、熱意をもって講義を行いたい。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	板書については、評価が得られていると思う。
理解への配慮 ⑪	4.0	4.0	理解への配慮については、概ね評価が得られていると思う。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	伝える工夫については、評価が得られていると思う。
アクティブな機会 ⑭	1.0	4.0	プログラミングを行いながらの講義なので、アクティブな機会を確保してるつもりではあるが、よりアクティブな機会を作っていこうと思う。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.0	4.0	自ら学ぶ態度については、概ね評価を得られていると思う。
全体評価 ⑯	5.0	4.0	評価を得られていると思う。

登録者数 = 31 名： 受験者数 A = 30 名： 単位取得者数 B = 30 名： 比率 (B/A) = 100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：試験（90%）、出席・課題（10%）

その他：Web アンケートに回答してくれたのが 1 名だった。今後は全受験者がアンケートに回答するようにアンケート回答時間を講義の中で確保したい。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載して下さい。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 18 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：Java プログラミング演習 I

授業担当者（代表者）名：山田 猛矢

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.33	4.0	自主学习のポイントに関する指導・指示が数回しかなかったと回答している学生が 1 名いたので今後は毎回行っていきたい。
内容の理解度 ⑤	3.67	4.0	半分程度しか理解していない学生が 1 名いたので、学生たちが理解できるよう、丁寧に講義を行いたい。
授業時間 ⑦	4.33	4.0	授業時間については、概ね評価が得られていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.0	4.0	熱意についても、概ね評価が得られていると思う。
板書・教材 ⑩	4.67	4.0	板書については、評価が得られていると思う。
理解への配慮 ⑪	3.67	4.0	理解度の高い学生向けの講義だったという学生が 1 名いたので、より丁寧な解説・説明を心掛けたい。
伝える工夫 ⑬	4.33	4.0	伝える工夫については、概ね評価が得られていると思う。
アクティブな機会 ⑭	3.33	4.0	プログラミングの演習なのでアクティブな機会を与えているつもりであるが、今後はよりアクティブな機会を確保したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.33	4.0	自ら学ぶ態度については、概ね評価が得られていると思う。
全体評価 ⑯	4.67	4.0	評価を得られていると思う。

登録者数 = 名： 受験者数 A = 名： 単位取得者数 B = 名： 比率 (B/A) = %

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：演習課題（100%）

学習目標の達成：全体評価を見ると 4.67 だったので、良かったのではないかと思います。

その他：Web アンケートの回答者数が 3 名と少なかったため、今後は講義の中でアンケート記入の時間を確保し、全員が回答するようにしたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 18 日

授業対象学科：TA

授業科目名：電磁気学基礎

授業担当者（代表者）名：山田 猛矢 所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.55	4.0	自主学习指導については、評価が得られていると思う。
内容の理解度 ⑤	4.18	4.0	内容の理解度については、概ね評価が得られていると思う。
授業時間 ⑦	4.82	4.0	授業時間については、評価が得られていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.36	4.0	熱意については、概ね評価が得られていると思う。
板書・教材 ⑩	4.55	4.0	板書については、評価が得られていると思う。
理解への配慮 ⑪	4.73	4.0	理解への配慮については、評価が得られていると思う。
伝える工夫 ⑬	4.82	4.0	伝える工夫については、評価が得られていると思う。
アクティブな機会 ⑭	4.09	4.0	アクティブな機会については、概ね評価が得られていると思う。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.00	4.0	自ら学ぶ態度についても、概ね評価が得られていると思う。
全体評価 ⑯	4.82	4.0	評価が得られていると思う。

登録者数 = 16 名： 受験者数 A = 15 名： 単位取得者数 B = 15 名： 比率 (B/A) = 100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：試験（80%）、出席・課題（20%）

学習目標の達成：全体評価を見ると 4.82 と良かったのではないかと思います。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 9 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：デジタルコンテンツ作成演習 I

授業担当者（代表者）名： 渋沢良太

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.5	4.0	できていた。自己学習状況を報告させ、少ない学生に対するモチベーションが向上するような工夫をする。
内容の理解度 ⑤	4.5	4.0	できていた。学生が発表する課題をさらに増やす。
授業時間 ⑦	4.0	4.0	できていた。引き続き開始、終了の時間を守る。
担当者の熱意 ⑧	4.5	4.0	できていた。新しい話題を積極的に取り入れる。
板書・教材 ⑩	4.5	4.0	できていた。スライド資料で、予め分かりやすく的確な説明を作成しておく。
理解への配慮 ⑪	4.5	4.0	できていた。学生と対話する回数を増やす。
伝える工夫 ⑬	4.5	4.0	できていた。補足説明の際、図や動画の活用を増やす。
アクティブな機会 ⑭	4.5	4.0	できていた。学生の発表の機会をさらに増やす。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.5	4.0	できていた。学生にアイデアを言語化させる機会を増やす。
全体評価 ⑯	4.5	4.0	できていた。アクティブな機会、自己学習の態度、支援をさらに改善する。

登録者数 = 2 名： 受験者数 A = 2 名： 単位取得者数 B = 2 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

高精度ジャイロセンサを用いた新しいサービス、小型移動ロボットを用いた Playware の設計、構築を中心に授業を展開した。学生の課題制作、発表を中心とした授業であったため、学生自らが考え、手を動かすことで学習対象に対する理解を深められた。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月9日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：データベースI

授業担当者（代表者）名： 渋沢良太

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.67	4.0	やや不十分であった。自己学習状況を報告させ、少ない学生に対するモチベーションが向上するような工夫をする。
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	できていた。システム開発の課題をさらに増やす。
授業時間 ⑦	4.33	4.0	できていた。引き続き開始、終了の時間を守る。
担当者の熱意 ⑧	4.67	4.0	できていた。新しい話題を積極的に取り入れる。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	できていた。スライド資料で、予め分かりやすく的確な説明を作成しておく。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	できていた。学生と対話する回数を増やす。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	できていた。補足説明の際、図や動画の活用を増やす。
アクティブな機会 ⑭	2.0	4.0	不十分であった。課題でデータベースを使ったシステム開発を行わせ、それについて発表させる機会を作る。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.33	4.0	できていた。Webのニュースサイト等で授業内容に関する情報収集をする習慣をつけさせ、プレゼンさせるようにする。
全体評価 ⑯	3.67	4.0	やや不十分であった。アクティブな機会、自己学習の態度、支援を改善する。

登録者数=7名：受験者数A=7名：単位取得者数B=7名：比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

データベースの理論的な説明、応用例の紹介からはじめ、SQLの基本的な文法、使い方について中心に講義を行った。データベースのメリットや活用方法は、Webアプリケーションの開発を通して理解が進むと思われる。データベースIIではWebアプリケーションの開発も授業で扱ったが、データベースIから授業でも扱うようにした方が良いと考えられる。その点を中心に、授業の再設計を図りたい。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月9日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：情報通信基礎講座

授業担当者（代表者）名： 渋沢良太

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.67	4.0	概ねできていた。自主学习の達成度を確認し、それに応じて学習指導内容を変えるようにする。
内容の理解度 ⑤	4.05	4.0	概ねできていた。教科書の内容に対する補足説明の際、図や動画の活用を増やす。
授業時間 ⑦	4.6	4.0	できていた。引き続き開始、終了の時間を守る。
担当者の熱意 ⑧	4.47	4.0	できていた。授業時間外での、授業についてのサポートを希望者に行う。
板書・教材 ⑩	4.7	4.0	できていた。スライド資料で、予め分かりやすく的確な説明を作成しておく。
理解への配慮 ⑪	4.58	4.0	できていた。定期的に小テストを実施し、その結果を確認して、授業内容の説明、時間の割り方を変えるようにする。
伝える工夫 ⑬	4.77	4.0	概ねできていた。補足説明の際、図や動画の活用を増やす。
アクティブな機会 ⑭	3.74	4.0	不十分であった。資格取得に関するメリット、デメリットに関する議論の機会を設ける。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.44	4.0	概ねできていた。資格試験の受験者数が増えるように促す。
全体評価 ⑯	4.4	4.0	概ねできていた。資格試験の出題範囲のうち、重要度をより細かく分析し、それに応じて説明時間を変更する。

登録者数=65名： 受験者数 A=65名： 単位取得者数 B=61名： 比率 (B/A) = 94 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

経済産業省所管の情報処理に関する国家試験である、iパスの合格を目指した授業であった。受験者数は7名、合格者数は3名であった。小テストの結果から、iパスに合格できそうな者があと2名ほどいた。資格取得を目指す授業であるため、受験者数/受講者数が100%になるように促したい。また、合格率は80%を目指したい(全国平均は50%)。

学生の意見や、他の学生と議論させる機会が少なかったため、資格取得のメリット、デメリットを議論する機会を設けることで、資格取得のモチベーションの向上、意義の理解を行えるように改善する。また、試験の出題範囲の重要な箇所、学習者の理解が弱いところを見極め、説明、方法を改善する。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 9 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：プログラミング入門 I

授業担当者（代表者）名： 渋沢良太

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.74	4.0	やや不十分であった。自己学習状況を報告させ、少ない学生に対するモチベーションが向上するような工夫をする。
内容の理解度 ⑤	4.26	4.0	できていた。プログラム開発の課題をさらに増やす。
授業時間 ⑦	4.63	4.0	できていた。引き続き開始、終了の時間を守る。
担当者の熱意 ⑧	4.3	4.0	できていた。新しい話題を積極的に取り入れる。
板書・教材 ⑩	4.81	4.0	できていた。スライド資料で、予め分かりやすく的確な説明を作成しておく。
理解への配慮 ⑪	4.56	4.0	できていた。学生と対話する回数を増やす。
伝える工夫 ⑬	4.56	4.0	できていた。補足説明の際、図や動画の活用を増やす。
アクティブな機会 ⑭	3.81	4.0	やや不十分であった。最終課題発表以外にも、学生に発表させる機会を作る。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.3	4.0	できていた。オリジナルのアプリ開発について自習させた。
全体評価 ⑯	4.4	4.0	やや不十分であった。アクティブな機会、自己学習の態度、支援を改善する。

登録者数=47名： 受験者数 A=47名： 単位取得者数 B=39名： 比率 (B/A) = 83%

総括（自由記述に対する対応含む）：

Scratch を使ってプログラミングの基本的な考え方、マルチスレッド等のやや高度な話題について授業を行った。オリジナルのアプリ開発を行わせる課題を最終課題として行わせ、そのアプリについてのプレゼンを他の学生の前で各自発表させた。大学初年度のプログラミングの授業であるため、今後の授業におけるプログラミング学習の意欲が高まるように、また自己学習能力を向上させるように、自ら手を動かして考える時間を多くとった。日本人の学生の 8 割近くは、高校で Scratch を学んだ経験があるため、Scratch 以外のより高度なプログラミングについても、プログラミング入門 I で扱うように改善したい。



授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載して下さい。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月9日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：経営情報システムI

授業担当者（代表者）名： 渋沢良太

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.0	4.0	概ねできていた。Webのニュースサイト等で授業内容に関する情報収集をする習慣をつけさせるようにする。
内容の理解度 ⑤	5.0	4.0	できていた。学生による発表等、学生がアウトプットする機会を増やす。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	できていた。引き続き開始、終了の時間を守る。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	できていた。新しい話題を積極的に取り入れる。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	できていた。スライド資料で、予め分かりやすく的確な説明を作成しておく。
理解への配慮 ⑪	5.0	4.0	できていた。学生と対話する回数を増やす。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	できていた。補足説明の際、図や動画の活用を増やす。
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	できていた。レポート課題の内容を、学習者にプレゼンさせるようにする。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	できていた。Webのニュースサイト等で授業内容に関する情報収集をする習慣をつけさせ、プレゼンさせるようにする。
全体評価 ⑯	5.0	4.0	概ねできていた。アクティブな機会、自己学習の態度、支援を改善する。

登録者数＝1名：受験者数A＝1名：単位取得者数B＝1名：比率(B/A)＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

企業の経営活動を支援する情報システムの授業であったため、企業での実際の経験、社会のタイムリーな話題をできるだけ伝えるようにした。学生の意見や、他の学生と議論させる機会が少なかったため、課題やレポートの内容を他の学習者にプレゼンさせるように改善する。また小グループで授業の内容について議論する時間、個々の学生と対話する時間を増やすようにする。

ビジネスプランコンテスト、RESAS 地方創生政策アイデアコンテスト等への参加も、学生自らが学ぶ時間、態度の改善につながるため、参加を検討する。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年2月23日

授業対象学科：TE(2)、TA

授業科目名：通信工学I

授業担当者（代表者）名：斉 培恒

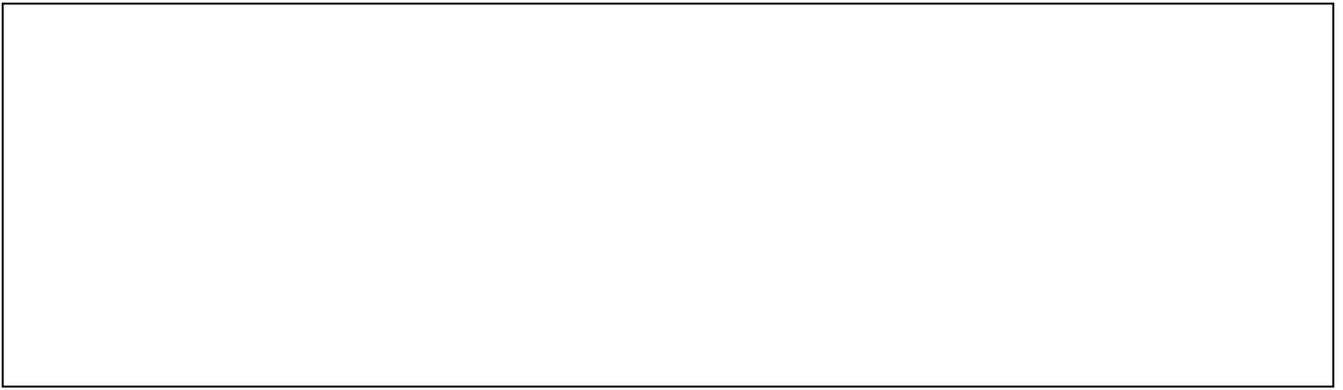
所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.40	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.20	4.0	
授業時間 ⑦	4.40	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.40	4.0	
板書・教材 ⑩	4.40	4.0	
理解への配慮 ⑪	3.20	4.0	主に Moodle によるオフライン授業を行ったことで、今後双方向の講義内容理解を確認し、改善を行う。
伝える工夫 ⑬	4.40	4.0	
アクティブな機会 ⑭	3.60	4.0	今後 Zoom を活用して遠隔授業にアクティブな環境を構築します。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.00	4.0	
全体評価 ⑯	4.40	4.0	

登録者数=31 名：受験者数 A=27 名：単位取得者数 B=25 名：比率 (B/A) =92%

総括（自由記述に対する対応含む）：

情報通信工学基礎とモバイルネットワークを中心に講義する授業である。一部漫画形式、板書、プロジェクターを組み合わせることで理解度を上げる。抽象的な科目ですが、今後現行システム例を挙げ、理解度を高める。



授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年2月23日

授業対象学科：TE(1,2),TA

授業科目名：情報リテラシー（情報処理基礎概論）

授業担当者（代表者）名：斉 培恒

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.00	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.14	4.0	
授業時間 ⑦	4.43	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.18	4.0	
板書・教材 ⑩	4.86	4.0	
理解への配慮 ⑪	4.00	4.0	
伝える工夫 ⑬	4.64	4.0	
アクティブな機会 ⑭	3.36	4.0	今後 Zoom を活用して遠隔授業にアクティブな環境を構築します。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.57	4.0	主に Moodle によるオフライン授業を行ったことで、今後双方向の講義内容理解を確認し、改善を行う。
全体評価 ⑯	4.36	4.0	

登録者数=171 名： 受験者数 A=146 名： 単位取得者数 B=141 名： 比率 (B/A) =97%

総括（自由記述に対する対応含む）：

この授業は情報科学を中心に情報機器、ネットワーク、セキュリティなどの歴史、実態を紹介する授業なので、少し実システムの見学、操作（使用）、実物提示が必要で、今後取り込みたい。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年2月23日

授業対象学科：TE(1)

授業科目名：情報電子基礎数理 I

授業担当者（代表者）名：斉 培恒

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.45	4.0	講義時間を確保、演習を増やす。
内容の理解度 ⑤	3.82	4.0	授業中寝ることは注意すべき、理解する時間を与える。理解度以前の問題。今後叩き起こします。ネット授業の効果に疑問。
授業時間 ⑦	4.45	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.18	4.0	
板書・教材 ⑩	4.64	4.0	
理解への配慮 ⑪	3.64	4.0	主に Moodle によるオフライン授業を行ったことで、今後双方向の講義内容理解を確認し、改善を行う。
伝える工夫 ⑬	4.55	4.0	
アクティブな機会 ⑭	3.35	4.0	今後 Zoom を活用して遠隔授業にアクティブな環境を構築します。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.36	4.0	
全体評価 ⑯	3.91	4.0	

登録者数=65 名：受験者数 A=60 名：単位取得者数 B=49 名：比率 (B/A) =82%

総括（自由記述に対する対応含む）：

非常にレベルのバラツキが大きい科目です。今後、大学でどのようにそのギャップを埋めるかは、課題になります。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 23 日

授業対象学科：TE(3)

授業科目名：電波工学 I

授業担当者（代表者）名：斉 培恒

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.22	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.11	4.0	
授業時間 ⑦	4.22	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.44	4.0	
板書・教材 ⑩	4.44	4.0	
理解への配慮 ⑪	3.67	4.0	主に Moodle によるオフライン授業を行ったことで、今後双方向の講義内容理解を確認し、改善を行う。
伝える工夫 ⑬	4.33	4.0	
アクティブな機会 ⑭	3.67	4.0	今後 Zoom を活用して遠隔授業にアクティブな環境を構築します。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.44	4.0	
全体評価 ⑯	4.22	4.0	

登録者数=27 名：受験者数 A=27 名：単位取得者数 B=27 名：比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

やる気を起こす方法を考え、一方的な教え込みを当たり前と思わないようにする。今後見えない電波の見える模型を作成して、少しでも学問に興味を持ってもらえるように努めます。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月18日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：マルチメディア工学

授業担当者（代表者）名：内村俊二

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.18	4.0	次回の学習内容への発展の概要を示したい。
内容の理解度 ⑤	4.10	4.0	内容は身近なIT関連の総論・入門であったが、範囲が広く専門的な略語が多かった。
授業時間 ⑦	4.38	4.0	終了時間を厳守した。一方、開始時間が遅れることがあったので、改善したい。
担当者の熱意 ⑧	4.33	4.0	パワーポイントの作成をまじめに取り組んだことを評価されたと考える。
板書・教材 ⑩	4.62	4.0	パワーポイントを活用したため、内容が伝わりやすかったと思われる。
理解への配慮 ⑪	4.36	4.0	授業内容理解の確認のために、毎回小テストを実施した。引き続き実施したい。
伝える工夫 ⑬	4.56	4.0	身近なIT機器について図や写真を多用した。実物を提示して理解しやすくする工夫を検討したい。
アクティブな機会 ⑭	3.10	4.0	リモート授業において実施が難しかった。身近なもの、あるいは最先端の事項と学習内容との関連を議論する機会を設けたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.05	4.0	身近なもの、あるいは最先端の事項と学習内容との関連への例示・リンクを示し、自発的関心を喚起したい。
全体評価 ⑯	4.28	4.0	学生の理解が進むよう、さらに改善したい。

登録者数=63名：受験者数A=58名：単位取得者数B=56名：比率(B/A)=97%

総括（自由記述に対する対応含む）：

- ・コロナ禍におけるリモート授業が主体となり授業進行に苦慮した。そのため、小テスト内で授業への要望や改善提案を募り、要望や提案に対してできる限り対応した。
- ・既学習内容の違いに配慮しながら、話題の始め方や掘り下げ方に留意した。
- ・小テストの実施により、重要なポイントの確認と知識定着を図った。
- ・学習内容を補完・強化するための議論の場を設けるようにしたい。
- ・自由記述における意見・コメント・・・なし

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載して下さい。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 1 8 日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：電子材料 I

授業担当者（代表者）名：内村俊二

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.46	4.0	次回の学習内容への発展の概要を示したい。
内容の理解度 ⑤	4.32	4.0	原子レベルの内容であったため具体的な理解が実感でき難いと思われたため、可能な限り図・アニメの提示を行った。
授業時間 ⑦	4.39	4.0	引き続き開始時間、終了時間を厳守したい。
担当者の熱意 ⑧	4.43	4.0	熱意が学習内容の理解につながるよう改善していきたい。
板書・教材 ⑩	4.71	4.0	リモート授業のために新たにスライドを作成し、授業前にダウンロードできるようにした。
理解への配慮 ⑪	4.61	4.0	授業内容理解の確認のために、授業終了時に小テストを毎回実施した。引き続き実施したい。
伝える工夫 ⑬	4.64	4.0	数式に対して定性的な解説および図示を行うことで、理解を深めるよう心掛けた。また、内容理解のため、ビデオを視聴した。
アクティブな機会 ⑭	4.00	4.0	学習内容と関連する、身近なもの、あるいは最先端の事項の調査・報告する課題を課した。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.39	4.0	学習内容と関連する、身近なもの、あるいは最先端の事項の調査・報告する課題を課した。
全体評価 ⑯	4.54	4.0	興味と理解が進むように改善を継続したい。

登録者数=30 名： 受験者数 A=30 名： 単位取得者数 B=29 名： 比率 (B/A) = 97 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

- ・コロナ禍におけるリモート授業が主体となり授業進行に苦慮した。そのため、小テスト内で授業への要望や改善提案を募り、要望や提案に対してできる限り対応した。
- ・リモート授業のために新たにスライドを作成し、授業前にダウンロードできるようにした。
- ・原子レベルの現象を理解してもらうため、図・アニメによる説明も可能な限り行った。
- ・小テストの実施により、重要なポイントの確認と知識定着を図った。
- ・自由記述における意見・コメント：「オンライン授業でも問題なかった。スライドの文字数がちょうどよかった」「わかりやすかった」・・・スライド導入を評価してもらえたものと思われる。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月18日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：アルゴリズムⅠ

授業担当者（代表者）名：内村俊二

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.22	4.0	次回の学習内容への発展の概要を示したい。
内容の理解度 ⑤	4.16	4.0	重要事項の定着と理解の度合いの確認のために、授業終了時に小テストを毎回実施した。
授業時間 ⑦	4.38	4.0	引き続き開始時間、終了時間を厳守したい。
担当者の熱意 ⑧	4.51	4.0	熱意が学習内容の理解につながるよう改善していきたい。
板書・教材 ⑩	4.81	4.0	リモート授業のために新たにスライドを作成し、授業前にダウンロードできるようにした。
理解への配慮 ⑪	4.51	4.0	授業内容理解の確認のために、授業終了時に小テストを毎回実施した。引き続き実施したい。
伝える工夫 ⑬	4.62	4.0	資料プリントやパワーポイントの導入を行った。また、授業内では可能な限り図・アニメの提示を行った。
アクティブな機会 ⑭	3.32	4.0	学習内容と関連する最先端事項の調査・報告する課題を課した。多人数リモート授業における議論の方法を模索したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.11	4.0	理解確認のための演習を増やし、内容の理解を促した。
全体評価 ⑯	4.27	4.0	学生の理解が進むよう、さらに改善したい。

登録者数=65名：受験者数A=60名：単位取得者数B=56名：比率(B/A)=93%

総括（自由記述に対する対応含む）：

- ・コロナ禍におけるリモート授業が主体となり授業進行に苦慮した。そのため、小テスト内で授業への要望や改善提案を募り、要望や提案に対してできる限り対応した。
- ・リモート授業のために新たにスライドを作成し、授業前にダウンロードできるようにした。
- ・アルゴリズムの動き・データの変化を理解するため、図・アニメによる説明も可能な限り行った。
- ・小テストの実施により、重要なポイントの確認と知識定着を図った。
- ・自由記述における意見・コメント・・・なし

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月18日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：電子工学実験Ⅱ

授業担当者（代表者）名：内村俊二

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.77	4.0	関連する他教科・単元の提示、または当該教科の教科書を持参させる等の対応を検討したい。
内容の理解度 ⑤	4.08	4.0	予習、実験、レポート完成で内容の理解が深まると思われる。今後、予習およびレポート提出の指導をさらに強化したい。
授業時間 ⑦	4.38	4.0	予習レポートで実験方法を予習していたため、規定の時間内でスムーズに実験を行えた。
担当者の熱意 ⑧	4.54	4.0	実験レポートの添削をていねいに行うことで、レポートの完成度および提出率を高めたい。
板書・教材 ⑩	4.77	4.0	一部の実験テーマにおいて補助資料の導入を行い、Moodle内で事前にダウンロードできるようにした。
理解への配慮 ⑪	4.38	4.0	予習、実験、レポート完成で内容の理解ができると考える。今後、予習およびレポート提出の指導をさらに強化したい。
伝える工夫 ⑬	4.46	4.0	説明および補助資料の提示により、実験内容の理解を進めた。
アクティブな機会 ⑭	4.54	4.0	予習、実験、レポート完成で知識が習得できると考える。今後、予習およびレポート提出の指導をさらに強化したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.54	4.0	予習、実験、レポート完成で知識が習得できると考える。今後、予習およびレポート提出の指導をさらに強化したい。
全体評価 ⑯	4.38	4.0	実験レポートの添削をていねいに行うことで、レポートの完成度および提出率を高めたい。

登録者数=30名：受験者数A=28名：単位取得者数B=27名：比率(B/A)=96%

総括（自由記述に対する対応含む）：

感染対策を行いながら対面実施した。昨年に引き続き予習レポートとして実験レポートの前半部分の作成を課し、実験のたびに個々のレポートの点検と指導を行った。次の2点を目的としている：

- (1) 実験レポートの前半部分をあらかじめ作成しておくことで、実験レポートの完成を早める。
- (2) 実験方法を前もって書くことで実験内容・手順が理解でき、実験がスムーズに進行する。

予習レポートはほぼ全員が書いており、実験の準備はできていたと思われる。また、毎回予習レポートをチェックし指導することで、レポート完成および提出を促進する効果はあったと思われるが、レポートの提出状況は好転しなかった。指導内容・仕方を検討する必要がある。

授業改善計画書（令和2年度前期講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月18日

授業対象学科：情報電子システム工学科・機械システム工学科

授業科目名：情報システム工学

授業担当者（代表者）名：當金一郎

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.20	4.0	毎回 Moodle にあげた教材を、後で見直すよう指導しており、自主学习指導をされていると評価された。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	毎回の授業の課題の他、2回小テストを実施して、その内容を期末テストに反映しており、評価されたと考える。
授業時間 ⑦	4.33	4.0	授業時間に関しては適切であったと判断してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.13	4.0	担当者の熱意についても高評価であった。
板書・教材 ⑩	4.40	4.0	教材は毎回 ppt⇒pdf で、分かりやすいものを提供できたと考えている。
理解への配慮 ⑪	4.27	4.0	オンライン授業が中心で理解への配慮をすることが難しかったが、課題でより理解をさせる努力をしていると評価された。
伝える工夫 ⑬	4.33	4.0	伝える工夫についても、今回は高評価であった。
アクティブな機会 ⑭	3.73	4.0	アクティブな学習機会をなかなか作れていない。今後工夫したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.40	4.0	自ら学ぶ態度については、今回自主教材を提供したため、高評価になった。
全体評価 ⑯	4.20	4.0	今年度はオンライン授業で Moodle にある教材をいつでも復習できる状態にしてある等、工夫が評価されたと考えられる。

登録者数=39名：受験者数 A=39名：単位取得者数 B= 39名：比率 (B/A) =100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

自由記述については、特に要望等無かった。

今後は更に教材を工夫していきたい。

授業改善計画書（令和 2 年度前期講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 18 日

授業対象学科：全学科

授業科目名：技術と経営

授業担当者（代表者）名：當金一郎

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.57	4.0	毎回 Moodle にあげた教材を、後で見直すよう指導しているが、今後より工夫したい。
内容の理解度 ⑤	3.71	4.0	題材がどうしても経営的なものであるが、今後工夫して理解度をあげたい。
授業時間 ⑦	4.29	4.0	授業時間に関しては適切であったと判断してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.14	4.0	担当者の熱意については伝わっていると考えます。
板書・教材 ⑩	4.57	4.0	教材は毎回 ppt⇒pdf で、分かりやすいものを提供できたと考えている。
理解への配慮 ⑪	3.57	4.0	題材がどうしても経営的なものであり、課題も 2 年生には難しいものになりがちである。今後工夫したい。
伝える工夫 ⑬	4.14	4.0	伝える工夫については、ある程度評価してもらっている。
アクティブな機会 ⑭	1.43	4.0	題材がどうしても経営的なものであり、アクティブな学習機会をなかなか作れていない。今後工夫したい。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.71	4.0	自ら学ぶ態度については、今回自主教材を提供したため、高評価になった。
全体評価 ⑯	3.43	4.0	今年度はオンライン授業で Moodle にある教材をいつでも復習できる状態にしてある等、工夫が評価されたと考えられる。

登録者数=68名：受験者数 A=68名：単位取得者数 B= 68名：比率 (B/A) =100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

自由記述については、特に要望等無かった。

今後は更に教材を工夫していきたい。

授業改善計画書（令和2年度前期講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月18日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：応用統計学

授業担当者（代表者）名：當金一郎

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.20	4.0	毎回宿題の形で自主教材を渡している。今後もより自主的な学習のできるよう工夫していきたい。
内容の理解度 ⑤	4.20	4.0	なるべく平易な例を挙げながら、授業を分かりやすくする工夫をしている。今後も工夫して理解度をあげたい。
授業時間 ⑦	5.00	4.0	授業時間に関しては適切であったと判断してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.60	4.0	担当者の熱意については伝わっていると考えます。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	板書はきれいに、写しやすいよう書いている。教材も毎回工夫したもの渡しており、評価されていると考えている。
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	理解しやすいよう、毎回身近な例を挙げながら説明しており、それが評されていると思う。
伝える工夫 ⑬	4.60	4.0	伝える工夫については、ある程度評価してもらっている。
アクティブな機会 ⑭	4.60	4.0	毎回質問をしながら、学習してもらうようにしており、アクティブな学習機会が作れていると評価してもらっている。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.80	4.0	自ら学ぶ態度については、若干低かったが、今後更に自主教材を工夫して提供していきたい。
全体評価 ⑯	5.00	4.0	全体として満足してもらったと考えている。

登録者数=1名：受験者数 A=1名：単位取得者数 B= 1名：比率 (B/A) =100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

自由記述については、特に要望等無かった。

今後更により分かりやすい授業を展開していきたい。

授業改善計画書（令和2年度前期講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月18日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：Webデザイン概論

授業担当者（代表者）名：當金一郎

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	5.00	4.0	毎回 Moodle にあげた教材を使いながら、各自コンテンツを作成するよう指導しており、自主学习指導をされていると評価された。
内容の理解度 ⑤	4.22	4.0	毎回の授業の課題の他、2回小テストを実施して、その内容を期末テストに反映しており、評価されたと考える。
授業時間 ⑦	4.22	4.0	授業時間に関しては適切であったと判断してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.11	4.0	担当者の熱意についても高評価であった。
板書・教材 ⑩	4.89	4.0	教材は毎回 ppt⇒pdf で、分かりやすいものを提供できたと考えている。
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	オンライン授業で学生の理解度がなかなか図れなかったが、課題により、理解度を向上させる努力をしていると評価された。
伝える工夫 ⑬	4.11	4.0	伝える工夫についても、今回は高評価であった。
アクティブな機会 ⑭	4.22	4.0	なかなか学生が発言ができる機会が作れないが、それなりに各自アクティブな活動をした為、評価されたと考える。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.22	4.0	自ら学ぶ態度についても、今回自主教材を提供したため、高評価になった。
全体評価 ⑯	4.11	4.0	今年度はオンライン授業で Moodle にある教材をいつでも復習できる状態にしてある等、工夫が評価されたと考えられる。

登録者数=47名：受験者数 A=47名：単位取得者数 B= 47名：比率 (B/A) =100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

自由記述については、特に要望等無かった。

今後更により分かりやすい授業を展開していきたい。

授業改善計画書（令和2年度前期講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月18日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：工業会計学Ⅰ

授業担当者（代表者）名：當金一郎

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.00	4.0	宿題の形で自主教材を渡したことが評価されたと考える。今後 もより自主的な学習ができるよう工夫していきたい。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	なるべく平易な例を挙げながら、授業を分かりやすくする工夫 をしている。今後も工夫して理解度をあげたい。
授業時間 ⑦	4.33	4.0	授業時間に関しては適切であったと判断してもらっていると思 う。
担当者の熱意 ⑧	4.33	4.0	担当者の熱意については伝わっていると考えます。
板書・教材 ⑩	4.33	4.0	板書はきれいに、写しやすいよう書いている。教材も毎回工夫 したもの渡しており、評価されていると考えている。
理解への配慮 ⑪	4.33	4.0	理解しやすいよう、毎回身近な例を挙げながら説明しており、 それが評されていると思う。
伝える工夫 ⑬	4.33	4.0	伝える工夫については、ある程度評価してもらっている。
アクティブな機会 ⑭	4.00	4.0	毎回質問をしながら、学習してもらおうようにしており、アクティブ な学習機会が作れていると評価してもらっている。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.67	4.0	自ら学ぶ態度については、若干低かったが、今後更に自主教材 を工夫して提供していきたい。
全体評価 ⑯	3.67	4.0	全体としての満足度は若干低かった。今後更に工夫していきたい と考える。

登録者数=2名：受験者数A=2名：単位取得者数B=2名：比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

自由記述については、特に要望等無かった。

今後更により分かりやすい授業を展開していきたい。

授業改善計画書（令和2年度前期講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月18日

授業対象学科：情報電子システム工学科

授業科目名：情報とコンピュータ

授業担当者（代表者）名：當金一郎

所属：情報電子システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	5.00	4.0	宿題の形で自主教材を渡したことが評価されたと考える。今後もより自主的な学習ができるよう工夫していきたい。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	なるべく平易な例を挙げながら、授業を分かりやすくする工夫をしている。今後も工夫して理解度をあげたい。
授業時間 ⑦	5.00	4.0	授業時間に関しては適切であったと判断してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	担当者の熱意については伝わっていると考えます。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	板書はきれいに、写しやすいよう書いている。教材も毎回工夫したもの渡しており、評価されていると考えている。
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	理解しやすいよう、毎回身近な例を挙げながら説明しており、それが評されていると思う。
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	伝える工夫については、度評価してもらっている。
アクティブな機会 ⑭	5.00	4.0	毎回質問をしながら、学習してもらおうようにしており、アクティブな学習機会が作れていると評価してもらっている。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	自ら学ぶ態度についても高評価であった。今後更に自主教材を工夫して提供していきたい。
全体評価 ⑯	5.00	4.0	全体としての評価も高評価であった。今後更に工夫していきたいと考える。

登録者数=5名：受験者数A=5名：単位取得者数B=5名：比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

自由記述については、特に要望等無かった。

理解度が足りないとの事であり、今後更に理解ができるよう、工夫していきたいと考える。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月30日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：自動車工学Ⅱ

授業担当者（代表者）名：仮屋孝二

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.57	4.0	「毎回の指導」と「ほとんどの回の指導」で100%であるので、評価を得ていると思う
内容の理解度 ⑤	4.14	4.0	「完璧に理解」と「ある程度理解」で86%であり、授業内容の改善効果がでていると思う
授業時間 ⑦	4.71	4.0	評価を得ていると思う
担当者の熱意 ⑧	4.86	4.0	評価を得ていると思う
板書・教材 ⑩	4.86	4.0	評価を得ていると思う
理解への配慮 ⑪	4.14	4.0	「十分配慮」と「ある程度配慮」で100%であり、評価を得ていると思う
伝える工夫 ⑬	4.57	4.0	評価を得ていると思う
アクティブな機会 ⑭	3.43	4.0	授業科目の特性上、討論する機会を設けるのは難しいが、学生に自分の意見を発表する機会を設けるようにさらに工夫する
自ら学ぶ態度 ⑮	3.86	4.0	自ら考える機会や積極的に学習する態度を身につけさせるように、意識付けの時間を引き続き設ける
全体評価 ⑯	4.14	4.0	「満足」と「大変満足」で100%であり、評価を得ていると思う

登録者数 = 7名：受験者数 A = 7名：単位取得者数 B = 7名：比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：定期試験結果、小テスト、レポート内容及び出席状況を総合的に評価する。

- ・用語や構造を理解できるように写真や動画を積極的に活用していく

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和3年3月30日

授業対象学科： 機械システム工学科

授業科目名： 自動車整備Ⅲ

授業担当者（代表者）名： 仮屋孝二

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.71	4.0	「毎回の指導」と「ほとんどの回の指導」で100%であるので、評価を得ていると思う
内容の理解度 ⑤	4.29	4.0	「完璧に理解」と「ある程度理解」で約8割であり、授業内容の改善効果がでていていると思う
授業時間 ⑦	4.64	4.0	評価を得ていると思う
担当者の熱意 ⑧	4.64	4.0	評価を得ていると思う
板書・教材 ⑩	4.57	4.0	評価を得ていると思う
理解への配慮 ⑪	4.79	4.0	「十分配慮」と「ある程度配慮」で100%であり、評価を得ていると思う
伝える工夫 ⑬	4.64	4.0	評価を得ていると思う
アクティブな機会 ⑭	4.50	4.0	授業科目の特性上、討論する機会を設けるのは難しいが、学生に自分の意見を発表する機会を設けるようにさらに工夫する
自ら学ぶ態度 ⑮	4.79	4.0	自ら考える機会や積極的に学習する態度を身につけさせるように、意識付けの時間を引き続き設ける
全体評価 ⑯	4.64	4.0	「満足」と「大変満足」で100%であり、評価を得ていると思う

登録者数 = 11名： 受験者数 A = 11名： 単位取得者数 B = 11名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：定期試験結果、小テスト、レポート内容及び出席状況を総合的に評価する。

- ・ 構造を理解できるように動画や実機を積極的に活用していく

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月29日

授業対象学科：機械システム工学科（2年）

授業科目名：応用材料工学

授業担当者（代表者）名：大脇 康博

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.03	4.0	小テストの前は自主学习しているようだが、それ以外は中々やれていないようである。更なる強制的自主学习への仕掛けが必要。
内容の理解度 ⑤	3.69	4.0	平衡状態図が複雑であり、その理解に苦勞していたように思う。もう少し時間を多く取り、演習問題等も行って一人一人の理解度を確認していく。
授業時間 ⑦	4.74	4.0	毎回終業ベルまでフルに活用し、できるだけ多くのことを教えられるよう務めてきた。
担当者の熱意 ⑧	4.44	4.0	必ず覚えてもらいたい内容を、動画や教科書以外の資料を使って、ゆっくり分かりやすく説明するように努めた。
板書・教材 ⑩	4.74	4.0	重要なポイントをPPTにまとめて、教科書と併用して説明するように努めた。
理解への配慮 ⑪	4.46	4.0	毎回小テストを行い、個人個人の理解度を確認した。
伝える工夫 ⑬	4.59	4.0	授業で使用するPPTをmoodleに掲載し、事前に学習できるようにした。
アクティブな機会 ⑭	3.54	4.0	オンライン授業の為、アクティブラーニング的な授業を取り入れることができなかった。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.92	4.0	毎回小テストを行うことで、必ず自主的に学習するように仕向けた。
全体評価 ⑯	4.15	4.0	初回に比べ、少しずつ評点が上がってきている。 来年度は更に高評点が得られるようブラッシュアップを図る。
登録者数=37名：受験者数A=35名：単位取得者数B=32名：比率(B/A)=91.4%			
総括（自由記述に対する対応含む）： コロナの影響でオンライン授業となり、これまでとは違う環境に対応しなければならず、自分も戸惑いながらの授業となった。来年度の授業形態にもよるが、特にアクティブな機会を取り入れる検討を進める。			

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載して下さい。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年4月9日

授業対象学科：3年

授業科目名：機械工学実験

授業担当者（代表者）名：板倉 朗

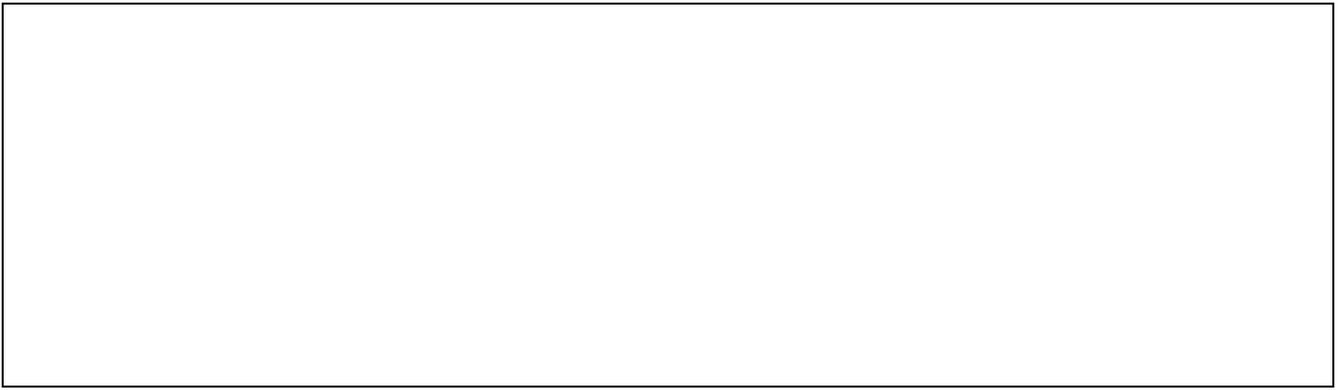
所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.00	4.0	レポート作成時毎回指導していたため、ほぼ全員が毎回されたとの回答。継続して自主学习方法の周知徹底をはかっていく。
内容の理解度 ⑤	4.75	4.0	全員がよく理解していることを示しているため、今後もより分かりやすく解説する。
授業時間 ⑦	5.00	4.0	適切に授業時間を使用していると評価されていると判断し、更なる改善に努める。
担当者の熱意 ⑧	4.75	4.0	ほぼ全員が熱意を感じてくれていると判断し、今後も全教員が熱意を持った講義に努める。
板書・教材 ⑩	4.75	4.0	適切に板書・教材を使用していると評価されていると判断し、更なる改善に努める。
理解への配慮 ⑪	4.75	4.0	全員がある程度理解に配慮しているとの回答である。レポート作成に時間がかからないよう理解度UPを図る。
伝える工夫 ⑬	4.25	4.0	適切に伝える工夫をしていると評価されていると判断し、これを維持すると共に、更なる改善に努める。
アクティブな機会 ⑭	3.25	4.0	全体的に発表する機会が不足しているとの評価。今後、課題を出し、それに対する発表の機会を増やしていく。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.50	4.0	学生自身で積極的に学習する態度を植え付けるべく、課題の提示、自宅学習の徹底等、指導していく。
全体評価 ⑯	4.50	4.0	ほぼ全員が満足であると示しているが、更なる改善の必要があると感じ、今後に向けた改善策を講じていく。

登録者数=34名：受験者数A=34名：単位取得者数B=27名：比率(B/A)=79.4%

総括（自由記述に対する対応含む）：

機械工学実験の授業は、6人の先生で6項目の実験を行い、レポートを提出して単位を認定しているため、期限内に6人の教員の分のレポートを提出できていない学生には、単位を認定していない。今年度は期限を守れない学生が多かった。



授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月29日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：コンピュータリテラシー

授業担当者（代表者）名：杉安幸二

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.21	4.0	自分でパソコン購入して自主練習するように再三指導した。 入学時に共同購入させるシステムにすると良い。
内容の理解度 ⑤	4.79	4.0	個別差はあるが、理解してくれたと思われる。 個別質問に対応しきれないので、TA制度充実できると良い。
授業時間 ⑦	4.89	4.0	エクセル応用機能に時間を多めに割り振る。 パワポプレゼン・アニメーションも充実させたい。
担当者の熱意 ⑧	4.68	4.0	社会で活かせる！を伝えつづける。
板書・教材 ⑩	4.32	4.0	未購入・忘れ等もあり、テキストにポイント書き込み プロジェクターに映して実施。
理解への配慮 ⑪	4.63	4.0	個別質問が多く対応しきれない時もある。 TA制度充実できると良い。
伝える工夫 ⑬	4.74	4.0	やってみせ、やらせてみる。反復練習。
アクティブな機会 ⑭	3.95	4.0	フリーディスカッションスタイルでやったが、 テキスト以外の課題も準備でアクティブL実施する。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.63	4.0	欠席回分も自主的に取りまかせ、できるだけ提出させた。
全体評価 ⑯	4.63	4.0	今後のコンピュータ関連授業対応の基礎は習得できたと思う

登録者数 = 25名： 受験者数 A = 23名： 単位取得者数 B = 21名： 比率 (B/A) = 91%

総括（自由記述に対する対応含む）：

スキルの差が大きいので、進捗の早い学生向けに追加課題等も準備しておく。
自主練習や授業のために、パソコンを入学時に共同購入させると良いと思う。
また個別質問対応にTA制度を充実したほうが、より理解が深まると思う。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月29日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：機械工作概論

授業担当者（代表者）名：杉安幸二

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.36	4.0	講義内容に関する自主学习のための課題・宿題を織り交ぜた。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	講義時間中も自主学习のための課題・宿題を織り交ぜてより理解を深める。
授業時間 ⑦	4.64	4.0	講義内容に関する自主学习のための課題・宿題の説明時間も確保していく。
担当者の熱意 ⑧	4.55	4.0	社会で活かせる！を迫及し、より具体的事例をできるだけ現地現物で織り交ぜる
板書・教材 ⑩	4.82	4.0	オンライン授業で、スマホで参加している学生見えているか？あまり書き込み過ぎないように留意。
理解への配慮 ⑪	4.55	4.0	小テスト等を織り交ぜながら、確認していく。
伝える工夫 ⑬	4.36	4.0	図絵・動画を多用した。現地現物ならなお良いのだが。
アクティブな機会 ⑭	3.09	4.0	小テスト・小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.36	4.0	自分で調べる・学ぶ小テスト・小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。
全体評価 ⑯	4.45	4.0	自分で調べる・学ぶ小テスト・小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。

登録者数=25名：受験者数A=24名：単位取得者数B=15名：比率(B/A)=63%

総括（自由記述に対する対応含む）：

図解・動画を多用し説明しながら進めたが、テキストにマーキングやメモを取る時間が少なく追いつけないことがあったようである。

ポイントをもっと絞り、演習を通しディスカッションの時間が取れるようにしていく。

小課題に取り組まない学生に対する対応を考える。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月29日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：製図基礎

授業担当者（代表者）名：杉安幸二

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	4.13	4.0	時間内に終わらなかった分は自宅学習するよう指導しているが 取り組み姿勢はまちまち。言い続ける。
内容の理解度 ⑤	3.88	4.0	同じことを数回繰り返して説明し、個別にも指導しているつもり だが、言い続けるしかない。
授業時間 ⑦	4.56	4.0	テキスト説明より、使うより慣れろ！なので、 演習時間を多く確保していく。
担当者の熱意 ⑧	4.81	4.0	社会で活かせる！を念頭にテキスト以外の演習 （実際にある物）織り交ぜていきたい。
板書・教材 ⑩	4.81	4.0	プロジェクタースクリーンが小さくまた映りが不鮮明。
理解への配慮 ⑪	4.38	4.0	個別に進捗確認しながら進めたが、個別進捗に差があり 遅れている学生の対応に時間がとられる。
伝える工夫 ⑬	4.50	4.0	テキスト以外の小課題を使用し、フリーディスカッション の機会を増やす。
アクティブな機会 ⑭	3.13	4.0	他の人の進捗をBMCし、自分の考えと議論するように言いつ づけているが、なかなか。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.31	4.0	欠席回分も自主的に取り組みできるだけ提出させた。
全体評価 ⑯	4.44	4.0	進捗の速い学生への対応が手薄になった。 さらに上を目指せるように指導していく。

登録者数=26名：受験者数A=24名：単位取得者数B=17名：比率(B/A)=71%

総括（自由記述に対する対応含む）：

時間内に終わらなかったら居残り・自宅で仕上げてくる学生もいる中で、時間内でもなかなか取り組まない学生もおり、取り組み姿勢の差が大きい。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月29日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：CAD応用

授業担当者（代表者）名：杉安幸二

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.70	4.0	無償CADソフトを利用し、オンライン授業対応・自宅学習できるようにした。だがCAD基礎でのオンラインは辛い。
内容の理解度 ⑤	4.60	4.0	質問にもオンラインで対応。対応しきれないところは、各自ネットで調べて対応しているようである。
授業時間 ⑦	5.00	4.0	テキスト説明より、使うより慣れろ！なので、演習時間を多く確保していく。
担当者の熱意 ⑧	4.80	4.0	社会で活かせる！を念頭にテキスト以外の演習も織り交ぜていきたい。
板書・教材 ⑩	4.85	4.0	CAD基礎と異なるソフトウェアかつオンライン授業ではあったが、Moddle上のテキストを参照し問題なく実施。
理解への配慮 ⑪	4.75	4.0	オンラインだったので、個別の進捗が見えない。やはり対面でないとちょっと厳しい。
伝える工夫 ⑬	4.65	4.0	テキスト以外の小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。
アクティブな機会 ⑭	4.30	4.0	テキスト以外の小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.85	4.0	テキスト以外の小課題を使用し、フリーディスカッションの機会を増やす。
全体評価 ⑯	4.85	4.0	オンラインだったので、個別の進捗が見えない。やはり対面でないとちょっと厳しい。

登録者数=28名：受験者数A=25名：単位取得者数B=21名：比率(B/A)=84%

総括（自由記述に対する対応含む）：

実技系のオンライン授業・ソフトウェアもクラウド系に変更してチャレンジ。

CAD基礎習得後の学生だったので、なんとか実施できた。

創作課題を課したが、使いこなせるようになった学生には楽しかったようである。

作品のプレゼンも実施したいところだが、進捗に差がありすぎて厳しい状態。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 4 月 1 2 日

授業対象学科：機械システム

授業科目名：情報リテラシー

授業担当者（代表者）名：大恵 克俊

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.33	4.0	高い評価を得られていると考える
内容の理解度 ⑤	4.11	4.0	高い評価を得られていると考える
授業時間 ⑦	4.37	4.0	高い評価を得られていると考える
担当者の熱意 ⑧	4.22	4.0	高い評価を得られていると考える
板書・教材 ⑩	4.19	4.0	高い評価を得られていると考える
理解への配慮 ⑪	3.96	4.0	高い評価を得られていると考える
伝える工夫 ⑬	4.19	4.0	高い評価を得られていると考える
アクティブな機会 ⑭	3.07	4.0	やや低い値となってしまった。プログラム実習を含むので、発表や討論などは適していないと考える
自ら学ぶ態度 ⑮	4.15	4.0	高い評価を得られていると考える
全体評価 ⑯	4.04	4.0	高い評価を得られていると考える

登録者数 = 25 名：受験者数 A = 22 名：単位取得者数 B = 20 名：比率 (B/A) = 91%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業の評価基準：受講態度（30%）およびレポート（70%）で評価した。

学習目標の達成：出席日数が充分であり、レポートを提出した学生は全員合格した。アンケート結果も概ね良好であり、学習目標がほぼ達成されたと考えられる。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 4 月 1 2 日

授業対象学科： 機械システム

授業科目名： 精密加工学

授業担当者（代表者）名： 大恵 克俊

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.28	4.0	高い評価を得られていると考える
内容の理解度 ⑤	4.14	4.0	高い評価を得られていると考える
授業時間 ⑦	4.76	4.0	高い評価を得られていると考える
担当者の熱意 ⑧	4.62	4.0	高い評価を得られていると考える
板書・教材 ⑩	4.83	4.0	高い評価を得られていると考える
理解への配慮 ⑪	4.59	4.0	高い評価を得られていると考える
伝える工夫 ⑬	4.41	4.0	高い評価を得られていると考える
アクティブな機会 ⑭	3.45	4.0	低い値となってしまった。知識を与えるための講義であるため仕方ないと考えるが、討論を行う機会等について再考する
自ら学ぶ態度 ⑮	4.62	4.0	高い評価を得られていると考える
全体評価 ⑯	4.48	4.0	高い評価を得られていると考える

登録者数 = 26 名： 受験者数 A = 26 名： 単位取得者数 B = 24 名： 比率 (B/A) = 92%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業の評価基準：受講態度（30%）およびレポート（70%）で評価した。

学習目標の達成：出席日数が充分であり、レポートを提出した学生は全員合格した。アンケート結果も概ね良好であり、学習目標がほぼ達成されたと考えられる。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載して下さい。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 4 月 1 2 日

授業対象学科：機械システム

授業科目名：機械力学

授業担当者（代表者）名：大恵 克俊

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.44	4.0	高い評価を得られていると考える
内容の理解度 ⑤	3.88	4.0	概ね高い評価を得られていると考える。理解していない学生が質問に来やすい雰囲気を作る必要がある
授業時間 ⑦	4.56	4.0	高い評価を得られていると考える
担当者の熱意 ⑧	4.63	4.0	高い評価を得られていると考える
板書・教材 ⑩	4.75	4.0	高い評価を得られていると考える
理解への配慮 ⑪	4.63	4.0	高い評価を得られていると考える
伝える工夫 ⑬	4.50	4.0	高い評価を得られていると考える
アクティブな機会 ⑭	3.88	4.0	基本的な学問であり、座学中心の講義を行うためこの項目が低くなることは避けられないと考える
自ら学ぶ態度 ⑮	4.19	4.0	高い評価を得られていると考える
全体評価 ⑯	4.19	4.0	高い評価を得られていると考える

登録者数 = 16 名：受験者数 A = 16 名：単位取得者数 B = 12 名：比率 (B/A) = 75%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業の評価基準：受講態度（30%）および定期試験（70%）で評価した。

学習目標の達成：本科目は 2 年次に単位所得すべき科目であり、受講生は全て 4 年生である。それにも関わらず本試験での合格率が 13% を極めて低く、実質再試験を受験するための資格を確保するためだけに受講していた学生が多かった。このような学生に対する意識改革を行う手段を講じる必要があると考える。再試験を行った結果、合格率は 75% にまで向上した。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年4月12日

授業対象学科：機械システム

授業科目名：機械要素設計

授業担当者（代表者）名：大恵 克俊

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.27	4.0	高い評価を得られていると考える
内容の理解度 ⑤	3.64	4.0	概ね高い評価を得られていると考える。理解していない学生が質問に来やすい雰囲気を作る必要がある
授業時間 ⑦	4.73	4.0	高い評価を得られていると考える
担当者の熱意 ⑧	4.91	4.0	高い評価を得られていると考える
板書・教材 ⑩	4.82	4.0	高い評価を得られていると考える
理解への配慮 ⑪	4.55	4.0	高い評価を得られていると考える
伝える工夫 ⑬	4.64	4.0	高い評価を得られていると考える
アクティブな機会 ⑭	2.91	4.0	基本的な学問であり、座学中心の講義を行うためこの項目が低くなることは避けられないと考える。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.09	4.0	高い評価を得られていると考える
全体評価 ⑯	4.27	4.0	高い評価を得られていると考える

登録者数＝ 5名： 受験者数 A＝ 5名： 単位取得者数 B＝ 4名： 比率 (B/A)＝ 80%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業の評価基準：受講態度（30%）および定期試験（70%）で評価した。

学習目標の達成：合格者の割合が再試を含め80%となった。不合格者は1名であり、単位取得へのモチベーションを上げる方法を探る必要がある。アクティブラーニングは本講義のような基幹科目には適さないと考えているが、自ら学ぶ態度、自主学习指導に関しては今後何らかの手段を講じたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 4 月 1 2 日

授業対象学科： 機械システム

授業科目名： 医療福祉機器概論

授業担当者（代表者）名： 大恵 克俊

所属： 機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.39	4.0	高い評価を得られていると考える
内容の理解度 ⑤	4.09	4.0	高い評価を得られていると考える
授業時間 ⑦	4.52	4.0	高い評価を得られていると考える
担当者の熱意 ⑧	4.39	4.0	高い評価を得られていると考える
板書・教材 ⑩	4.74	4.0	高い評価を得られていると考える
理解への配慮 ⑪	4.39	4.0	高い評価を得られていると考える
伝える工夫 ⑬	4.48	4.0	高い評価を得られていると考える
アクティブな機会 ⑭	3.57	4.0	概ね高い評価を得られていると考える。最終課題をもう少し長期間かけて途中経過などの発表練習をさせるべきか
自ら学ぶ態度 ⑮	4.57	4.0	高い評価を得られていると考える
全体評価 ⑯	4.39	4.0	高い評価を得られていると考える

登録者数 = 21 名： 受験者数 A = 19 名： 単位取得者数 B = 19 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業の評価基準：受講態度（30%）およびレポート・プレゼンテーション（70%）で評価した。

学習目標の達成：出席日数を満たしレポートを提出した学生は全員合格した。アンケート結果も概ね良好であり、学習目標がほぼ達成されたと考えられる。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載して下さい。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 4 月 1 2 日

授業対象学科：機械システム

授業科目名：機械力学基礎

授業担当者（代表者）名：大恵 克俊

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.13	4.0	高い評価を得られていると考える
内容の理解度 ⑤	3.57	4.0	概ね高い評価を得られていると考える。理解していない学生が質問に来やすい雰囲気を作る必要がある
授業時間 ⑦	4.33	4.0	高い評価を得られていると考える
担当者の熱意 ⑧	4.08	4.0	高い評価を得られていると考える
板書・教材 ⑩	3.98	4.0	概ね高い評価を得られていると考える。教材への工夫を再考する
理解への配慮 ⑪	3.93	4.0	概ね高い評価を得られていると考える。理解していない学生への問いかけ等を行う等を行いたい
伝える工夫 ⑬	4.07	4.0	高い評価を得られていると考える
アクティブな機会 ⑭	3.18	4.0	基本的な学問であり、座学中心の講義を行うためこの項目が低くなることは避けられないと考える
自ら学ぶ態度 ⑮	4.15	4.0	高い評価を得られていると考える
全体評価 ⑯	3.70	4.0	概ね高い評価を得られていると考える

登録者数 = 55 名：受験者数 A = 48 名：単位取得者数 B = 26 名：比率 (B/A) = 54%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業の評価基準：受講態度（30%）および定期試験（70%）で評価した。

学習目標の達成：合格者の割合が再試を含め、54%と前年度（59%）をやや下回った。今後は不合格者を減らすべく、理解度の低い学生に対して補習および意識改革等を行う必要があると考えられる。アクティブラーニングは本講義のような基幹科目には適さないと考えているが、板書・教材、理解への配慮に関しては今後何らかの手段を講じたい。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載して下さい。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年4月12日

授業対象学科：機械システム

授業科目名：機械要素設計

授業担当者（代表者）名：大恵 克俊

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.27	4.0	高い評価を得られていると考える
内容の理解度 ⑤	3.64	4.0	概ね高い評価を得られていると考える。理解していない学生が質問に来やすい雰囲気を作る必要がある
授業時間 ⑦	4.73	4.0	高い評価を得られていると考える
担当者の熱意 ⑧	4.91	4.0	高い評価を得られていると考える
板書・教材 ⑩	4.82	4.0	高い評価を得られていると考える
理解への配慮 ⑪	4.55	4.0	高い評価を得られていると考える
伝える工夫 ⑬	4.64	4.0	高い評価を得られていると考える
アクティブな機会 ⑭	2.91	4.0	基本的な学問であり、座学中心の講義を行うためこの項目が低くなることは避けられないと考える。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.09	4.0	高い評価を得られていると考える
全体評価 ⑯	4.27	4.0	高い評価を得られていると考える

登録者数＝5名：受験者数A＝5名：単位取得者数B＝4名：比率(B/A)＝80%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業の評価基準：受講態度（30%）および定期試験（70%）で評価した。

学習目標の達成：合格者の割合が再試を含め80%となった。不合格者は1名であり、単位取得へのモチベーションを上げる方法を探る必要がある。アクティブラーニングは本講義のような基幹科目には適さないと考えているが、自ら学ぶ態度、自主学习指導に関しては今後何らかの手段を講じたい。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月29日

授業対象学科：機械システム工学科（2年）

授業科目名：応用材料工学

授業担当者（代表者）名：大脇 康博

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.03	4.0	小テストの前は自主学习しているようだが、それ以外は中々やれていないようである。更なる強制的自主学习への仕掛けが必要。
内容の理解度 ⑤	3.69	4.0	平衡状態図が複雑であり、その理解に苦勞していたように思う。もう少し時間を多く取り、演習問題等も行って一人一人の理解度を確認していく。
授業時間 ⑦	4.74	4.0	毎回終業ベルまでフルに活用し、できるだけ多くのことを教えられるよう務めてきた。
担当者の熱意 ⑧	4.44	4.0	必ず覚えてもらいたい内容を、動画や教科書以外の資料を使って、ゆっくり分かりやすく説明するように努めた。
板書・教材 ⑩	4.74	4.0	重要なポイントをPPTにまとめて、教科書と併用して説明するように努めた。
理解への配慮 ⑪	4.46	4.0	毎回小テストを行い、個人個人の理解度を確認した。
伝える工夫 ⑬	4.59	4.0	授業で使用するPPTをmoodleに掲載し、事前に学習できるようにした。
アクティブな機会 ⑭	3.54	4.0	オンライン授業の為、アクティブラーニング的な授業を取り入れることができなかった。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.92	4.0	毎回小テストを行うことで、必ず自主的に学習するように仕向けた。
全体評価 ⑯	4.15	4.0	初回に比べ、少しずつ評点が上がってきている。 来年度は更に高評点が得られるようブラッシュアップを図る。
登録者数=37名：受験者数A=35名：単位取得者数B=32名：比率(B/A)=91.4%			
総括（自由記述に対する対応含む）： コロナの影響でオンライン授業となり、これまでとは違う環境に対応しなければならず、自分も戸惑いながらの授業となった。来年度の授業形態にもよるが、特にアクティブな機会を取り入れる検討を進める。			

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月29日

授業対象学科：機械システム工学科（2年）

授業科目名：工業化学基礎

授業担当者（代表者）名：大脇 康博

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.20	4.0	宿題として各章毎に演習問題を提出させた。
内容の理解度 ⑤	3.98	4.0	1人1人に質問しながら、それぞれの理解度を確認しながら進めていった。
授業時間 ⑦	4.35	4.0	ほぼ時間いっぱい使って授業を進めていった。
担当者の熱意 ⑧	4.41	4.0	どうすれば理解できるか、常に考えながら説明資料の作成を行った。
板書・教材 ⑩	4.63	4.0	使用していた教科書が廃版になった為、それまで使用した内容を基にPPTを使って授業を行った。
理解への配慮 ⑪	4.12	4.0	学生の理解度を確認しながら、臨機応変に内容を変更して、とにかく理解してもらうことを最優先に進めていった。
伝える工夫 ⑬	4.57	4.0	例題を解かせたり、世の中とのつながりを実例を使って説明したりすることで、理解度を深める工夫を織り込んだ。
アクティブな機会 ⑭	3.73	4.0	オンライン授業の為、アクティブラーニング的な授業を取り入れることができなかった。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.00	4.0	受け身一辺倒にならないよう、常に質問しながら進め、自ら考えさせるよう仕向けた。
全体評価 ⑯	4.14	4.0	留学生が多く、日本語の理解で苦戦していた。語学力を高めるよう指導していく。

登録者数=44名：受験者数A=42名：単位取得者数B=40名：比率(B/A)=95.2%

総括（自由記述に対する対応含む）：

コロナの影響でオンライン授業となり、これまでとは違う環境に対応しなければならず、自分も戸惑いながらの授業となった。来年度の授業形態にもよるが、特にアクティブな機会を取り入れる検討を進める。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月30日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：自動車実習 I

授業担当者（代表者）名：東條 雄太

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.50	4.0	初めての自動車実習の中での理解度を深める為に 授業改善し復習・予習を活用して行きたい。
内容の理解度 ⑤	4.50	4.0	理解度がまちまちになってしまっている部分が多いと思う、引 き上げを含め細かく分野を分け理解度を確認して行きたい。
授業時間 ⑦	4.83	4.0	実習として理解と技術習得に努めていきたい。
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	実習と仕事のつながりを理解してもらい、その熱意をもち続け たい。
板書・教材 ⑩	4.83	4.0	これからの教材は理解を深める為のものを厳選して行きたい。
理解への配慮 ⑪	4.92	4.0	引き上げを含め細かく分野を分け理解度を確認して行きたい。
伝える工夫 ⑬	4.75	4.0	よりわかりやすくする工夫を行って行きたい。
アクティブな機会 ⑭	4.67	4.0	1人1人の考えを持ち寄り行えるような実習体制に持っていき アクティブラーニングへ繋げなければならない。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.58	4.0	積極性を授業の中で学生たちが出せるような「雰囲気づくりを 高めていきたい。
全体評価 ⑯	4.83	4.0	自主学习の低下、自主性を持たせるなどの課題を優先して改善 して行きたい。

登録者数 = 13名： 受験者数 A = 13名： 単位取得者数 B = 13名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

初めての自動車実習ということもあり、実習内容から自動車の理解を深めることをテーマに進めることが出来たと思う。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月30日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：自動車実習 II

授業担当者（代表者）名：東條 雄太

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.50	4.0	実習という事柄上、その場にて完結してしまう部分が多かったと思う。改善し復習・予習を活用して行きたい。
内容の理解度 ⑤	4.50	4.0	理解度がまちまちになってしまっている部分が多いと思う、引き上げを含め細かく分野を分け理解度を確認して行きたい。
授業時間 ⑦	4.50	4.0	効率のいい時間の使い方を実践していきたい。
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	熱意を絶やすことなく、継続した理解につながるようにしたい
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	これからの教材は理解を深める為のものを厳選して行きたい。
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	引き上げを含め細かく分野を分け理解度を確認して行きたい。
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	わかりやすくする工夫は継続して行って行きたい。
アクティブな機会 ⑭	5.00	4.0	1人1人の考えを持ち寄り行えるような実習体制に持っていきアクティブラーニングへ繋げなければならない。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	積極性を授業の中で学生たちが出せるような「雰囲気づくりを高めていきたい。
全体評価 ⑯	5.00	4.0	自主学习の低下、自主性を持たせるなどの課題を優先して行きたい。

登録者数 = 7名： 受験者数 A=7名： 単位取得者数 B=7名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業に積極的に参加し、達成感を個人個人が感じることが出来るような授業づくりを行って行きたい。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月30日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：自動車実習 IV

授業担当者（代表者）名：東條 雄太

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.50	4.0	実習という事柄上、その場にて完結してしまう部分が多かったと思う。改善し復習・予習を活用して行きたい。
内容の理解度 ⑤	4.75	4.0	理解度がまちまちになってしまっている部分が多いと思う、引き上げを含め細かく分野を分け理解度を確認して行きたい。
授業時間 ⑦	4.75	4.0	実習として理解と技術習得に努めていきたい。
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	実習と仕事のつながりを理解してもらい、その熱意をもち続けたい。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	これからの教材は理解を深める為のものを厳選して行きたい。
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	引き上げを含め細かく分野を分け理解度を確認して行きたい。
伝える工夫 ⑬	4.25	4.0	よりわかりやすくする工夫を行って行きたい。
アクティブな機会 ⑭	4.75	4.0	1人1人の考えを持ち寄り行えるような実習体制に持っていきアクティブラーニングへ繋げなければならない。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.75	4.0	積極性を授業の中で学生たちが出せるような「雰囲気づくりを高めていきたい。
全体評価 ⑯	4.00	4.0	自主学习の低下、自主性を持たせるなどの課題を優先して改善して行きたい。

登録者数 = 3名： 受験者数 A=3名： 単位取得者数 B=3名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

卒業前の単位ということもあり、実習内容から社会へのつながりにつなげ、仕事への技術とつながるような内容にしていきたい。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年4月9日

授業対象学科：3年

授業科目名：応用熱力学

授業担当者（代表者）名：板倉 朗

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.89	4.0	毎回指導しておりが、ほぼ全員が毎回されたとの回答している。引き続き、自主学习方法の周知徹底をはかる。
内容の理解度 ⑤	4.22	4.0	ある程度(44.4%)、完璧に(44.4%)の理解度を示しているが、少しの理解(11.1%)といるためより分かりやすく解説する。
授業時間 ⑦	5.00	4.0	十分に活用し、適切に使っていると評価されているが、更に有効な使い方を工夫。
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	全員が熱意が感じられるとの意見であり、引き続き熱心に指導していく。
板書・教材 ⑩	4.00	4.0	適切に板書・教材を使用していると評価されていると判断し、更なる改善に努める。
理解への配慮 ⑪	4.11	4.0	全員が「ある程度理解に配慮」以上が77.8%で配慮しているとの評価ではあるが、より配慮した講義に努める。
伝える工夫 ⑬	4.00	4.0	全員が「ある程度工夫している」以上と回答しており、よりよく工夫して行くよう、更なる改善策を講じる。
アクティブな機会 ⑭	2.33	4.0	全体的に発表する機会が少な過ぎたと感じる。今後、課題を出し、それに対する発表の機会を増やしていく。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.33	4.0	学生自身で積極的に学習する態度を植え付けるべく、課題の提示、自宅学習の徹底等、指導していく。
全体評価 ⑯	3.89	4.0	満足以上が66.8%だが、全体的に目標値以下であり、更なる改善の必要があると感じ、今後に向けた改善策を講じていく。

登録者数=22名：受験者数A=22名：単位取得者数B=22名：比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

シラバスに従い、期末試験（80%）、ノート取得状況&受講態度（30%）で評価した。

学習目標の達成：合格者の割合が再試験後において100%（22名中22名）で、未取得者0名。

ただし、理解度が低く、理解度の確認不足との評価なので、次の回の授業で復習を織込みながら理解度をはかりながら理解力向上に向けた方策を取りながら、授業を進めて行きたいと考える。

その他：有効回答数が履修者22名中9名であったため、解答率の引き上げを指導していく必要がある

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 4 月 9 日

授業対象学科：3 年

授業科目名：機械工学実験

授業担当者（代表者）名：板倉 朗

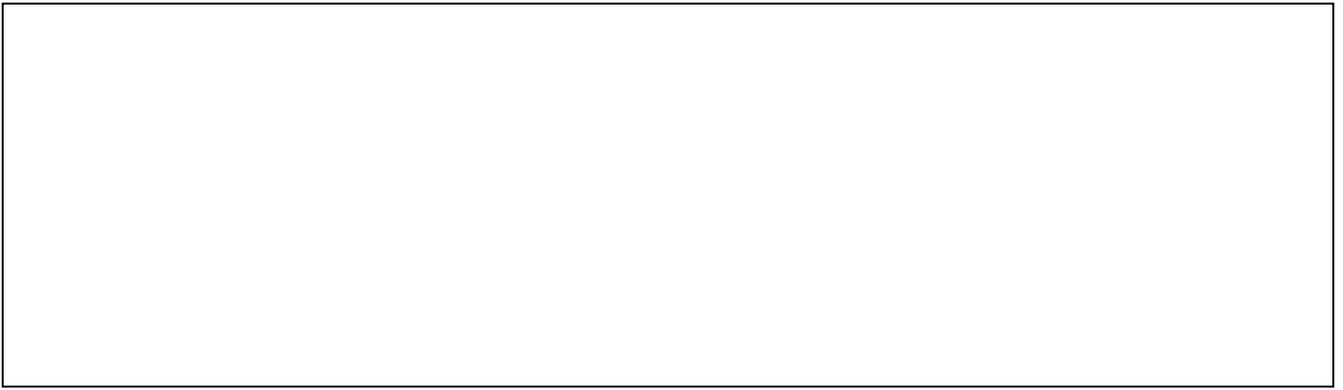
所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.00	4.0	レポート作成時毎回指導していたため、ほぼ全員が毎回されたとの回答。継続して自主学习方法の周知徹底をはかっていく。
内容の理解度 ⑤	4.75	4.0	全員がよく理解していることを示しているため、今後もより分かりやすく解説する。
授業時間 ⑦	5.00	4.0	適切に授業時間を使用していると評価されていると判断し、更なる改善に努める。
担当者の熱意 ⑧	4.75	4.0	ほぼ全員が熱意を感じてくれていると判断し、今後も全教員が熱意を持った講義に努める。
板書・教材 ⑩	4.75	4.0	適切に板書・教材を使用していると評価されていると判断し、更なる改善に努める。
理解への配慮 ⑪	4.75	4.0	全員がある程度理解に配慮しているとの回答である。レポート作成に時間がかからないよう理解度 UP を図る。
伝える工夫 ⑬	4.25	4.0	適切に伝える工夫をしていると評価されていると判断し、これを維持すると共に、更なる改善に努める。
アクティブな機会 ⑭	3.25	4.0	全体的に発表する機会が不足しているとの評価。今後、課題を出し、それに対する発表の機会を増やしていく。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.50	4.0	学生自身で積極的に学習する態度を植え付けるべく、課題の提示、自宅学習の徹底等、指導していく。
全体評価 ⑯	4.50	4.0	ほぼ全員が満足であると示しているが、更なる改善の必要があると感じ、今後に向けた改善策を講じていく。

登録者数=34 名： 受験者数 A=34 名： 単位取得者数 B=27 名： 比率 (B/A) =79.4%

総括（自由記述に対する対応含む）：

機械工学実験の授業は、6 人の先生で 6 項目の実験を行い、レポートを提出して単位を認定しているため、期限内に 6 人の教員の分のレポートを提出できていない学生には、単位を認定していない。今年度は期限を守れない学生が多かった。



授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年4月9日

授業対象学科：2年

授業科目名：自動車工学I

授業担当者（代表者）名：板倉 朗

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.20	4.0	毎回指導しておりが、ほぼ全員が毎回されたとの回答している。引き続き、自主学习方法の周知徹底をはかる。
内容の理解度 ⑤	3.40	4.0	ある程度(44.4%)、完璧に(44.4%)の理解度を示しているが、少しの理解(11.1%)といるためより分かりやすく解説する。
授業時間 ⑦	3.80	4.0	十分に活用し、適切に使っていると評価されているが、更に有効な使い方を工夫。
担当者の熱意 ⑧	4.00	4.0	全員が熱意が感じられるとの意見であり、引き続き熱心に指導していく。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	適切に板書・教材を使用していると評価されていると判断し、更なる改善に努める。
理解への配慮 ⑪	4.00	4.0	全員が「ある程度理解に配慮」以上が77.8%で配慮しているとの評価ではあるが、より配慮した講義に努める。
伝える工夫 ⑬	4.60	4.0	全員が「ある程度工夫している」以上と回答しており、よりよく工夫して行くよう、更なる改善策を講じる。
アクティブな機会 ⑭	3.00	4.0	全体的に発表する機会が少な過ぎたと感じる。今後、課題を出し、それに対する発表の機会を増やしていく。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.20	4.0	学生自身で積極的に学習する態度を植え付けるべく、課題の提示、自宅学習の徹底等、指導していく。
全体評価 ⑯	3.60	4.0	満足以上が40%で、どちらでもないが60%と、全体的に目標値以下であり、更なる改善の必要があると感じ、今後に向けた改善策を講じていく。
登録者数=22名： 受験者数A=13名： 単位取得者数B=13名： 比率(B/A)=100%			

総括（自由記述に対する対応含む）：

シラバスに従い、期末試験（80%）、ノート取得状況&受講態度（30%）で評価した。

学習目標の達成：合格者の割合が再試験後において 100%（13 名中 13 名）で、未取得者 0 名。

ただし、理解度が低く、理解度の確認不足との評価なので、次の回の授業で復習を織込みながら理解度をはかりながら理解力向上に向けた方策を取りながら、授業を進めていきたいと考える。

その他：有効回答数が履修者 13 名中 5 名であったため、解答率の引き上げを指導していく必要がある

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載して下さい。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年4月9日

授業対象学科：4年

授業科目名：自動車工学Ⅲ

授業担当者（代表者）名：板倉 朗

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.67	4.0	毎回指導しておりが、ほぼ全員が毎回されたとの回答している。引き続き、自主学习方法の周知徹底をはかる。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	ある程度(44.4%)、完璧に(44.4%)の理解度を示しているが、少しの理解(11.1%)といるためより分かりやすく解説する。
授業時間 ⑦	4.67	4.0	十分に活用し、適切に使っていると評価されているが、更に有効な使い方を工夫。
担当者の熱意 ⑧	4.00	4.0	全員が熱意が感じられるとの意見であり、引き続き熱心に指導していく。
板書・教材 ⑩	4.00	4.0	適切に板書・教材を使用していると評価されていると判断し、更なる改善に努める。
理解への配慮 ⑪	3.67	4.0	「理解に十分に配慮」が66.7%で配慮しているとの評価に対し「配慮無」が1名。より配慮した講義に努める。
伝える工夫 ⑬	3.33	4.0	「かなり程度工夫している」以上が66.6と回答しているが、1名が「無配慮」と回答。よりよく工夫して行くよう、更なる改善策を講じる。
アクティブな機会 ⑭	3.67	4.0	全体的に発表する機会が少な過ぎたと感じる。今後、課題を出し、それに対する発表の機会を増やしていく。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	学生自身で積極的に学習する態度を植え付けるべく、課題の提示、自宅学習の徹底等、指導していく。
全体評価 ⑯	4.00	4.0	満足以上が66.6%で、どちらでもないが33.3%と、全体的に目標値以下であり、更なる改善の必要があると感じ、今後に向けた改善策を講じていく。
登録者数=22名： 受験者数 A=10名： 単位取得者数 B=10名： 比率 (B/A) =100%			

総括（自由記述に対する対応含む）：

シラバスに従い、期末試験（80%）、ノート取得状況&受講態度（30%）で評価した。

学習目標の達成：合格者の割合が再試験後において 100%（10 名中 10 名）で、未取得者 0 名。

ただし、理解度が低く、理解度の確認不足との評価なので、次の回の授業で復習を織込みながら理解度をはかりながら理解力向上に向けた方策を取りながら、授業を進めていきたいと考える。

その他：有効回答数が履修者 13 名中 5 名であったため、解答率の引き上げを指導していく必要がある

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年4月8日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：機械要素の形

授業担当者（代表者）名：武田 隆宏

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.53	4.0	自習を促すための課題・配布資料などを設定する
内容の理解度 ⑤	4.37	4.0	おおむね問題ないと認識している
授業時間 ⑦	4.11	4.0	おおむね問題ないと認識している
担当者の熱意 ⑧	4.00	4.0	おおむね問題ないと認識している
板書・教材 ⑩	4.68	4.0	おおむね問題ないと認識している
理解への配慮 ⑪	3.79	4.0	講義時間中の小テスト等を増やし、理解度の把握に努める
伝える工夫 ⑬	4.47	4.0	おおむね問題ないと認識している
アクティブな機会 ⑭	3.11	4.0	学生間の発表の場等を設定し、アクティブな機会の増加を図る
自ら学ぶ態度 ⑮	3.84	4.0	自習を促すための課題・配布資料などを設定する
全体評価 ⑯	4.00	4.0	おおむね問題ないと認識している

登録者数=24名：受験者数A=21名：単位取得者数B=17名：比率(B/A)=81%

総括（自由記述に対する対応含む）：

総合的に、自習やアクティブラーニングに関する不足が指摘された。自習課題やレポート課題を設定し、学生自身が学ぶ意欲を持てるような講義内容に変更する。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年4月8日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：メカトロニクス概論

授業担当者（代表者）名：武田 隆宏

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.1	4.0	おおむね問題ないと認識している
内容の理解度 ⑤	4.2	4.0	おおむね問題ないと認識している
授業時間 ⑦	4.6	4.0	おおむね問題ないと認識している
担当者の熱意 ⑧	4.1	4.0	おおむね問題ないと認識している
板書・教材 ⑩	4.8	4.0	おおむね問題ないと認識している
理解への配慮 ⑪	4.3	4.0	おおむね問題ないと認識している
伝える工夫 ⑬	4.4	4.0	おおむね問題ないと認識している
アクティブな機会 ⑭	3.2	4.0	オンライン講義のため、ディスカッションの時間の確保が少なかつた。レポート等を通じてアクティブな機会を増加させていく
自ら学ぶ態度 ⑮	4.0	4.0	おおむね問題ないと認識している
全体評価 ⑯	4.2	4.0	おおむね問題ないと認識している

登録者数=25名：受験者数A=24名：単位取得者数B=24名：比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

オンライン講義と対面授業が混在しており、学生間のディスカッションの時間を確保しきれていなかった。学生の積極的な参加を促すような課題を設定し、アクティブな機会を増やしていく。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 4 月 8 日

授業対象学科：機械システム工学科

授業科目名：ロボット工学

授業担当者（代表者）名：武田 隆宏

所属：機械システム工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.23	4.0	おおむね問題ないと認識している
内容の理解度 ⑤	3.92	4.0	おおむね問題ないと認識している
授業時間 ⑦	4.42	4.0	おおむね問題ないと認識している
担当者の熱意 ⑧	4.15	4.0	おおむね問題ないと認識している
板書・教材 ⑩	4.54	4.0	おおむね問題ないと認識している
理解への配慮 ⑪	4.15	4.0	おおむね問題ないと認識している
伝える工夫 ⑬	4.23	4.0	おおむね問題ないと認識している
アクティブな機会 ⑭	3.88	4.0	ロボット工学に関するレポート課題と発表の場を設ける
自ら学ぶ態度 ⑮	4.08	4.0	おおむね問題ないと認識している
全体評価 ⑯	4.08	4.0	おおむね問題ないと認識している

登録者数 = 22 名：受験者数 A = 20 名：単位取得者数 B = 20 名：比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

概ね問題ないと認識しているが、アクティブな機会を増やすための発表の場を設けるなどして、学生の自主的な学びを促す。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月6日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：施工管理 I

授業担当者（代表者）名：岩元 泉 所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学習指導 ②	3.73	4.0	改善が必要 予習課題に取り組んでいく
内容の理解度 ⑤	3.93	4.0	改善が必要 受講者が理解しているか、確認も含めて復習も更に力を入れる
授業時間 ⑦	4.47	4.0	適度と判断する
担当者の熱意 ⑧	4.40	4.0	適度と判断する
板書・教材 ⑩	4.33	4.0	適度と判断する
理解への配慮 ⑪	4.20	4.0	適度と判断する
伝える工夫 ⑬	4.53	4.0	適度と判断する
アクティブな機会 ⑭	3.07	4.0	改善が必要 学生の理解度も確認する上で意見の機会を設ける
自ら学ぶ態度 ⑮	3.60	4.0	改善が必要 関心を持つように改善が必要
全体評価 ⑯	4.00	4.0	

登録者数 = 37名： 受験者数 A = 35名： 単位取得者数 B = 31名： 比率 (B/A) = 88.5%

総括（自由記述に対する対応含む）：

受講者が関心を持つように改善

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 27 日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：コンピュータリテラシー

授業担当者（代表者）名：森園由香

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.5	4.0	コンピュータを持たない学生に対し自主学習の指導が充実できなかった。PC 室の積極的な利用を促す。
内容の理解度 ⑤	3.5	4.0	コンピュータに不慣れな学生が多かった。TA をもう一人増やして全体に目が届くような体制を整えるべきである。
授業時間 ⑦	4.5	4.0	90 分全体を通して手を動かす時間を設けられた。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	在学中に習得すべきスキルやこういった場面で活用できるかを具体的に示し、意欲を持たせるように努めた。
板書・教材 ⑩	4.75	4.0	教員の手技をわかりやすく示すよう努めた。
理解への配慮 ⑪	4.5	4.0	操作は必ず 2 回以上説明し、区切りの良いところで必ず全員に向けて疑問点の有無を確認した。
伝える工夫 ⑬	4.5	4.0	説明するときは全員がこちらを見ていることを確認してから説明するよう努めた。
アクティブな機会 ⑭	2.25	4.0	個人ごとに操作をおこなうためアクティブな機会は設けづらい。
自ら学ぶ態度 ⑮	2.25	4.0	苦手意識が強い学生が多い。課題をクリアすることで自信をつけさせ積極性を養いたい。
全体評価 ⑯	3.75	4.0	前期はコンピュータに対する苦手意識克服を改善するべく、ごく基本的な内容に止め後期への準備期間としたい。

登録者数 = 28 名： 受験者数 A = 名： 単位取得者数 B = 名： 比率 (B/A) = %

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月27日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：植物・食品科学実験

授業担当者（代表者）名：森園由香

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	1.0	4.0	適宜資料を配布して予習・復習ができるよう努める。
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	実験の目的や手技についての説明を十分におこなった。
授業時間 ⑦	4.0	4.0	授業前に実験機材等の準備をおこない、スムーズな授業運営に努めた。
担当者の熱意 ⑧	4.0	4.0	学生とディスカッションしながら進めた。
板書・教材 ⑩	4.0	4.0	ホワイトボードやPCを活用した。
理解への配慮 ⑪	4.0	4.0	少人数であることを活かし、全員に質問の有無や理解できたかどうかを確認しながら進めた。
伝える工夫 ⑬	4.0	4.0	ホワイトボードを活用し図でわかりやすく説明するよう努めた。
アクティブな機会 ⑭	3.0	4.0	実験前に結果について予測したり得られた実験結果について全員でディスカッションする時間を増やすよう努める。
自ら学ぶ態度 ⑮	2.0	4.0	自主学習の促進やレポートへのコメントなどを充実させ、学生が興味をもてるよう努める。
全体評価 ⑯	4.0	4.0	少人数であることを活かし、全員が手を動かし自らデータを得られるよう進められた。

登録者数＝ 5名： 受験者数 A＝ 5名： 単位取得者数 B＝ 5名： 比率 (B/A)＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 22 日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：日本語 B

授業担当者（代表者）名：村尾 智

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.0	4.0	何度も音読をさせたことで効果が出たと感じる。次回は専門用語が学べる科学の入門書を教科書として難語の徹底的な学習を行わせる。
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	受講生の理解度に合わせて手作り教材を用意した。次回は専門用語が学べる科学の入門書を教科書として難語の徹底的な学習を行わせる。
授業時間 ⑦	4.0	4.0	30 分ごとの区切りを設けた。次回もそのようにしたい。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	毎回、学生に細やかな気配りをしたことが評価されたと感じる。引き続き良い関係構築に努めたい。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	毎回、学生が興味を持ちそうなテーマで手作りの教材を準備したが、講義に統一感が出ないので、次回は専門用語が学べる科学の入門書を用いる。
理解への配慮 ⑪	1.0	4.0	受講生の日本語力が非常に低いため理解度の見積もりが困難である。次回から小テストを繰り返す。
伝える工夫 ⑬	4.0	4.0	動画を視聴させる際はトランスクリプトを用意するなどの工夫をした。引き続き工夫を行いたい。
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	環境関係の記事から難語を抜き出す訓練を行ったが、次回からは専門用語が学べる科学の入門書を教科書として、難語の徹底的な学習を行わせる。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	自主学习を強く勧めた。次回は専門用語が学べる科学の入門書を教科書として難語の徹底的な学習を行わせる。
全体評価 ⑯	4.0	4.0	学生の様子を見ながら教材を毎回工夫したことでよい評価が得られたと感じる。次回も対面式の授業を行い細やかな対応をしてゆく。

登録者数 = 5 名： 受験者数 A = 2 名： 単位取得者数 B = 1 名： 比率 (B/A) = 50%

総括（自由記述に対する対応含む）：

受験生のうち張池は試験中に 2 度不正を働いたため、教務委員会にかけたが、「厳正に対処すべき」との結論になり、規定通り、前期の単位全てを剥奪した。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 21 日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：環境アセスメント

授業担当者（代表者）名：村尾 智

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.5	4.0	環境アセスメントの調査項目を 1 つ 1 つ考えさせた効果が出たと感じる。引き続きこの方向で進めたい。
内容の理解度 ⑤	3.5	4.0	SEA の概念が導入されて配慮書が加わったあたりが理解に苦しむ部分のようである。より丁寧に解説を行いたい。
授業時間 ⑦	5.0	4.0	30 分ごとのセグメントに分けて学生の疲労に配慮した点が評価されたと感じる。引き続きこの方向で進めたい。
担当者の熱意 ⑧	5.0	4.0	環境アセスメントの書類の実物を用いて毎回学生の様子を見ながら講義したことが高評価につながったと感じる。引き続きこの方向で進めたい。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	毎回、学生の反応を見ながら、副教材を用意した。引き続きこの方向で進めたい。
理解への配慮 ⑪	4.5	4.0	毎回、学生 1 人 1 人に、カギとなる質問をして、理解度を確認した。引き続きこの方向で進めたい。
伝える工夫 ⑬	4.5	4.0	教材と台詞を徹底的に工夫した。引き続きこの方向で進めたい。
アクティブな機会 ⑭	3.5	4.0	座学が多すぎたと感じている。次回は野外観察の課題を与えたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.5	4.0	教材を充実させたことで学生の意欲が高まった。引き続きこの方向で進めたい。
全体評価 ⑯	4.5	4.0	手作りの教材、副教材を工夫したことでかなりの効果を上げることができた。引き続きこの方向で進めたい。

登録者数=20 名： 受験者数 A=13 名： 単位取得者数 B=13 名： 比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

特になし

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月21日

授業対象学科：自然環境工学科 建築デザイン学科

授業科目名：環境工学概論

授業担当者（代表者）名：村尾 智

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点*		現時点での自己評価と改善の方策 *上段は自然環境工学科、下段は建築デザイン学科
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.00 4.64	4.0	図面の読み取り作業を行わせるなどの工夫をした結果、建築デザイン学科の多数（特に女子）が熱心に取り組むようになった。引き続きこのような方法を取りたい。
内容の理解度 ⑤	3.57 3.91	4.0	この授業では資源技術にとどまらずCSRにまで話が広がる。この点について丁寧な説明を心掛けたい。
授業時間 ⑦	4.43 4.73	4.0	対面授業の場合は、30分ごとのセグメントに分けて、話を進めたが、その効果が出ていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.57 4.82	4.0	数名を除いて今回の受講生は非常に熱心で教授する側も力が入った。次回はオンラインとなるので新たな工夫をしたい。
板書・教材 ⑩	4.14 4.45	4.0	教材はすべて手作りで、学生の反応を見ながら、改良を行っている。次回もそのようにしたい。
理解への配慮 ⑪	4.14 4.64	4.0	教材に未完成の図面を示し、それを完成するよう指示するなどの工夫が効果を生んだと感じる。引き続き工夫を重ねたい。
伝える工夫 ⑬	4.14 4.64	4.0	次回はオンライン授業になるので動画を活用したい。
アクティブな機会 ⑭	3.71 4.55	4.0	簡単な計算をさせるなどの工夫をしたが学科で評点に大きな差が出たので更なる工夫が必要と感じる。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.43 4.91	4.0	できる限り関心を引き出すよう、教材を工夫したが、その効果があったと感じる。
全体評価 ⑯	3.71 4.36	4.0	学科によって評価に大きな差が出たことに驚いている。自然環境工学科との意思疎通を図りたい。

登録者数=68名： 受験者数A=55名： 単位取得者数B=46名： 比率(B/A)=84%

総括（自由記述に対する対応含む）：

毎年、建築デザインの学生から「この授業を受ける意味がない」「こんな事をして何になるのか」というコメントが寄せられる。「建築デザイン学科にとって必修ではない」事、「同学科の科目を履修するだけでは単位が足りないため救済措置として受講が認められている」事を初回授業で周知しているにもかかわらず、このようなクレームがある。したがって、救済措置は他の学科の科目でなされるべきである。2021年度からは建築デザイン学科の履修を認めない。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和3年 月 日

授業対象学科： 自然環境工学科

授業科目名： 測量学Ⅱ

授業担当者（代表者）名： 田中龍児

所属： 自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.17	4.0	全体平均より低い。オンライン授業では難しかった。
内容の理解度 ⑤	2.00	4.0	全体平均よりかなり低い。オンライン授業では難しいところがあった。
授業時間 ⑦	4.33	4.0	目標を超えている。
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	目標を超えている。
板書・教材 ⑩	4.33	4.0	目標を超えている。
理解への配慮 ⑪	4.00	4.0	目標どおり。
伝える工夫 ⑬	3.67	4.0	オンラインでは難しいところがある。
アクティブな機会 ⑭	3.17	4.0	オンラインでは難しいところがある。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.33	4.0	パソコンを見るだけの授業なので難しかったかも知れない。
全体評価 ⑯	4.33	4.0	目標を超えている。

登録者数=21 名： 受験者数 A=21 名： 単位取得者数 B=21 名： 比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年2月19日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：土質工学I

授業担当者（代表者）名：田中龍児

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.67	4.0	全体平均より低い。オンライン授業では難しかった。
内容の理解度 ⑤	3.50	4.0	全体平均より低い。オンライン授業では難しいところがあった。
授業時間 ⑦	4.33	4.0	目標を超えている。
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	目標を超えている。
板書・教材 ⑩	4.83	4.0	目標をかなり超えている。
理解への配慮 ⑪	4.00	4.0	目標どおり。
伝える工夫 ⑬	3.67	4.0	オンラインでは難しいところがある。
アクティブな機会 ⑭	2.83	4.0	オンラインでは難しいところがある。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.00	4.0	目標どおり。
全体評価 ⑯	4.17	4.0	目標を超えている。

登録者数=22 名： 受験者数 A=22 名： 単位取得者数 B=22 名： 比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 19 日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：製図

授業担当者（代表者）名：田中龍児

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.00	4.0	全体平均より低い。実技科目であり、初めての受講者には導入部分でつまづいたこともあったかも知れない。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	目標どおり。
授業時間 ⑦	4.00	4.0	目標どおり。
担当者の熱意 ⑧	4.00	4.0	目標どおり。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	目標をかなり超えている。
理解への配慮 ⑪	4.00	4.0	目標どおり。
伝える工夫 ⑬	3.00	4.0	途中からオンラインになったので、そこから伝わらなかったかも知れない。
アクティブな機会 ⑭	2.00	4.0	限られた時間内での手作業のため難しい。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.00	4.0	次年度工夫したい。
全体評価 ⑯	4.00	4.0	目標どおり。

登録者数=3 名： 受験者数 A=3 名： 単位取得者数 B=3 名： 比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年2月19日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：製図I

授業担当者（代表者）名：田中龍児

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	2.92	4.0	全体平均よりかなり低い。実技科目であり、初めての受講者には導入部分でつまづいたこともあったかも知れない。
内容の理解度 ⑤	3.42	4.0	難しいところから、オンラインになったためかも知れない。
授業時間 ⑦	4.50	4.0	目標を超えている。
担当者の熱意 ⑧	4.42	4.0	目標を超えている。
板書・教材 ⑩	3.83	4.0	資料のみで分かり難かったかも知れない。
理解への配慮 ⑪	3.58	4.0	オンラインでは難しい部分もあったと思う。
伝える工夫 ⑬	3.83	4.0	途中からオンラインになったので、そこから伝わらなかったかも知れない。
アクティブな機会 ⑭	2.17	4.0	限られた時間内での手作業のため難しい。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.25	4.0	次年度工夫したい。
全体評価 ⑯	3.58	4.0	実技科目のため、オンラインでは難しい。

登録者数=26名：受験者数A=26名：単位取得者数B=26名：比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年2月19日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：建築測量

授業担当者（代表者）名：田中龍児

所属：自然環境工学科（建築デザイン学科科目）

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.33	4.0	全体平均より低い。実技科目であり、自主学习は必要なかったのかも知れない。
内容の理解度 ⑤	3.83	4.0	機械の取り扱いが初めて学ぶ人には難しかったかも知れない。
授業時間 ⑦	4.50	4.0	目標を超えている。
担当者の熱意 ⑧	4.67	4.0	目標を超えている。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	目標を超えている。
理解への配慮 ⑪	3.83	4.0	全体に分かるよう工夫する。
伝える工夫 ⑬	3.83	4.0	オンラインになったこともあり伝わらなかった。
アクティブな機会 ⑭	4.50	4.0	なぜか目標を超えている。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.67	4.0	目標を超えている。
全体評価 ⑯	3.83	4.0	実技科目のため、オンラインでは難しい。

登録者数=29 名： 受験者数 A=29 名： 単位取得者数 B=29 名： 比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 16 日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：鉄筋コンクリート工学

授業担当者（代表者）名：難波 礼治

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.67	4.0	詳しい説明や解説を小まめに入れる工夫で改善したい。 繰り返しの問題を実際に数多く解かせたい。
内容の理解度 ⑤	4.33	4.0	教科書の内容を実際の現場や自然現象とリンクさせて講義を展開していきたい。
授業時間 ⑦	5.00	4.0	予習復習をさせるようにする課題もさらに追加。
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
板書・教材 ⑩	4.00	4.0	わかりやすく聞き取りやすい声、 明瞭な印刷プリントには心掛けている。
理解への配慮 ⑪	5.00	4.0	板書をさらに丁寧に見やすくさらに、ノートに記述しやすいように工夫したい。
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	出来る限りすべての学生に配慮した内容を準備したい。追加課題や演習など。
アクティブな機会 ⑭	4.33	4.0	双方向の時間をさらに増やしたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	学ぶことへの興味関心を刺激するような課題や題目を工夫する 必要がさらにある。
全体評価 ⑯	4.57	4.0	今後、更に工夫を進めたいと思う。

登録者数=34名：受験者数 A=34名：単位取得者数 B=34名：比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

教科書の内容を実際の現場や自然現象とリンクさせ継続し講義を展開していきたい。

予習復習の課題を用意していく。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月16日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：土木実験

授業担当者（代表者）名：難波 礼治

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.67	4.5	詳しい説明や解説を小まめに入れる工夫で改善したい。 繰り返しの問題を実際に数多く解かせたい。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.5	教科書の内容を実際の現場や自然現象とリンクさせて講義を展開していきたい。
授業時間 ⑦	4.33	4.5	実験値と理論値、で「解」を求めている。解の違いや差異について興味をもってもらいたい。
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.5	しっかり個々が実験に携われる機会を継続して与えて行きたい。
板書・教材 ⑩	5.00	4.5	わかりやすく聞き取りやすい声、 明瞭な印刷プリントには心掛けている。
理解への配慮 ⑪	4.67	4.5	板書をさらに丁寧に見やすくさらに、ノートに記述しやすいように工夫したい。
伝える工夫 ⑬	4.67	4.5	出来る限りすべての学生に配慮した内容を準備したい。追加課題や演習など。
アクティブな機会 ⑭	5.00	4.5	双方向の時間をさらに増やしたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.67	4.5	学ぶことへの興味関心を刺激するような課題や題目を工夫する 必要がさらにある。
全体評価 ⑯	4.33	4.5	今後、更に工夫を進めたいと思う。

登録者数=31名：受験者数A=31名：単位取得者数B=31名：比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

実験の内容を自然現象とリンクさせてわかりやすい解説で実験を継続していきたい。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月16日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：木材加工

授業担当者（代表者）名：難波 礼治

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.50	4.0	毎回の宿題や予習の課題を準備して自主学習の習慣を身に付けさせたい。
内容の理解度 ⑤	4.50	4.0	教科書の内容を実際の現場や自然現象とリンクさせて講義を展開していきたい。
授業時間 ⑦	4.50	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	熱意についてもある程度の評価は得られていると思う。
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	板書をさらに丁寧に見やすくさらに、ノートに記述しやすいように工夫したい。
理解への配慮 ⑪	4.50	4.0	出来る限りすべての学生に配慮した内容を準備したい。追加課題や演習など。
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	板書をさらに丁寧に見やすくさらに、ノートに記述しやすいように工夫したい。
アクティブな機会 ⑭	3.00	4.0	学生とのやり取り、学生と学生とのやり取りを継続して取り入れて行きたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.00	4.0	学問の趣旨なぜこれを学ばないといけないかを、これまでにしっかりと周知しておりその評価であると考え。
全体評価 ⑯	4.50	4.0	反省を行いブラッシュアップしていきたい。

登録者数=14名：受験者数A=14名：単位取得者数B=14名：比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

引き続き創意工夫のもと講義を展開していきたい。

予習復習、特に採用試験合格に繋がる課題を今以上に用意したい。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月17日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：どぼく学

授業担当者（代表者）名：本田泰寛

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.86	4.0	講義内容に応じたポイントを都度あげるよう努めていたが、よりわかりやすい提示の工夫が必要
内容の理解度 ⑤	3.95	4.0	本学科で学ぶ内容を大まかに説明する講義であったが、一部演習における進捗に気を配る必要がある。
授業時間 ⑦	4.67	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
担当者の熱意 ⑧	4.67	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
板書・教材 ⑩	4.86	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
理解への配慮 ⑪	4.71	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
伝える工夫 ⑬	4.71	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
アクティブな機会 ⑭	4.14	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
自ら学ぶ態度 ⑮	4.71	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
全体評価 ⑯	4.38	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める

登録者数=25名： 受験者数 A=25名： 単位取得者数 B=23名： 比率 (B/A) =92%

総括（自由記述に対する対応含む）：

おおむね目標達成している。自主学习に対する指導が理解度の低下につながっている可能性があるため、この点に注意する必要がある。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月17日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：構造力学I

授業担当者（代表者）名：本田泰寛

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.17	4.0	講義内容に応じたポイントを都度あげるよう努めていたが、よりわかりやすい提示の工夫が必要
内容の理解度 ⑤	3.92	4.0	オンライン中心となったため、理解が困難であったと考えられる。スライド等の工夫が必要
授業時間 ⑦	4.75	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
担当者の熱意 ⑧	4.58	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
板書・教材 ⑩	4.92	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
理解への配慮 ⑪	4.67	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
伝える工夫 ⑬	4.58	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
アクティブな機会 ⑭	3.75	4.0	演習問題による理解の深化を重視したため、アクティブな機会を設けるよう工夫が必要
自ら学ぶ態度 ⑮	3.75	4.0	より興味・関心をひくような事例の提示等の工夫が必要
全体評価 ⑯	4.58	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める

登録者数=25名： 受験者数 A=25名： 単位取得者数 B=20名： 比率 (B/A) =80%

総括（自由記述に対する対応含む）：

おおむね目標達成している。オンラインによる力学の授業は現象の説明と理論との関連を説明することが難しく、また対面で得られるような理解度の確認が困難であり、引き続き改善の工夫が必要であるとする。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 17 日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：都市計画

授業担当者（代表者）名：本田泰寛

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.26	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
内容の理解度 ⑤	3.88	4.0	都度、理解度を確認するための演習問題を課しているが、演習内容の工夫が必要
授業時間 ⑦	4.47	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
担当者の熱意 ⑧	4.47	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
板書・教材 ⑩	4.76	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
理解への配慮 ⑪	4.76	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
伝える工夫 ⑬	4.53	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
アクティブな機会 ⑭	3.91	4.0	講義および講義内容を確認するための演習問題が中心であった。調査・発表等を取り入れる等の工夫が必要
自ら学ぶ態度 ⑮	4.59	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
全体評価 ⑯	4.41	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める

登録者数=25名：受験者数 A=25名：単位取得者数 B=23名：比率 (B/A) =92%

総括（自由記述に対する対応含む）：

おおむね目標達成している。理解度の向上およびアクティブな機会の設定においてやや目標に達していないが、両者をセットで工夫することが可能であると考え。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月17日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：製図Ⅱ

授業担当者（代表者）名：本田泰寛

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.36	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
内容の理解度 ⑤	4.21	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
授業時間 ⑦	4.57	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
担当者の熱意 ⑧	4.71	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
板書・教材 ⑩	4.93	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
理解への配慮 ⑪	4.57	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
伝える工夫 ⑬	4.79	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
アクティブな機会 ⑭	4.36	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
自ら学ぶ態度 ⑮	4.71	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
全体評価 ⑯	4.64	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める

登録者数=28名： 受験者数 A=28名： 単位取得者数 B=28名： 比率 (B/A) =100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

おおむね目標達成している。本授業は演習であるため、対面授業で実施することができたことも、目標達成の重要な要因であると考えられる。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月17日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：交通工学

授業担当者（代表者）名：本田泰寛

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.92	4.0	講義内容に応じて自主学习のポイントを都度あげるよう努めていたが、よりわかりやすい提示の工夫が必要
内容の理解度 ⑤	3.92	4.0	都度、理解度を確認するための演習問題を課しているが、演習内容の工夫が必要
授業時間 ⑦	4.00	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
担当者の熱意 ⑧	4.31	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
板書・教材 ⑩	4.38	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
理解への配慮 ⑪	4.15	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
伝える工夫 ⑬	4.46	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
アクティブな機会 ⑭	3.46	4.0	演習問題による理解の深化を重視したため、アクティブな機会を設けるよう工夫が必要
自ら学ぶ態度 ⑮	4.23	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
全体評価 ⑯	4.38	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める

登録者数=29名：受験者数A=29名：単位取得者数B=28名：比率(B/A)=96%

総括（自由記述に対する対応含む）：

おおむね目標達成している。自主学习の機会を増やすことで内容の理解度をあげる等の工夫が必要。講義と演習が中心であるため、演習においてアクティブな内容を盛り込む等の工夫が必要。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月17日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：地域社会環境学

授業担当者（代表者）名：本田泰寛

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.33	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
内容の理解度 ⑤	3.33	4.0	資料読解など自主学习に相当する機会は設定されていたが、より自主的に学べるような誘導が必要
授業時間 ⑦	4.33	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
担当者の熱意 ⑧	5.00	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
板書・教材 ⑩	5.00	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
理解への配慮 ⑪	4.67	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
伝える工夫 ⑬	5.00	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
アクティブな機会 ⑭	3.33	4.0	当初グループによるアクティブラーニング的な要素を取り入れる予定であったが、次年度以降実施の予定
自ら学ぶ態度 ⑮	4.33	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
全体評価 ⑯	5.00	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める

登録者数=6名：受験者数A=4名：単位取得者数B=3名：比率(B/A)=75%

総括（自由記述に対する対応含む）：

おおむね目標達成している。地域の歴史的な課題、環境問題等を知る機会を設定し、資料読解や現場見学、外部講師の依頼など工夫をしたが、個別・具体の事例の理解という点でより丁寧な説明が必要であったかと考える。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月17日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：計画学

授業担当者（代表者）名：本田泰寛

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.89	4.0	講義内容に応じたポイントを都度あげるよう努めていたが、よりわかりやすい提示の工夫が必要
内容の理解度 ⑤	3.56	4.0	都度、理解度を確認するための演習問題を課しているが、演習内容の工夫が必要
授業時間 ⑦	4.22	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
担当者の熱意 ⑧	4.56	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
板書・教材 ⑩	4.56	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
理解への配慮 ⑪	4.00	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
伝える工夫 ⑬	4.56	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
アクティブな機会 ⑭	3.33	4.0	演習問題による理解の深化を重視したため、アクティブな機会を設けるよう工夫が必要
自ら学ぶ態度 ⑮	4.33	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
全体評価 ⑯	4.67	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める

登録者数=21名： 受験者数 A=20名： 単位取得者数 B=20名： 比率 (B/A) =95%

総括（自由記述に対する対応含む）：

おおむね目標達成している。自主学习の機会を増やすことで内容の理解度をあげる等の工夫が必要。講義と演習が中心であるため、演習においてアクティブな内容を盛り込む等の工夫が必要。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月17日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：行政法

授業担当者（代表者）名：本田泰寛

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.20	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
内容の理解度 ⑤	4.05	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
授業時間 ⑦	4.35	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
担当者の熱意 ⑧	4.55	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
板書・教材 ⑩	4.60	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
理解への配慮 ⑪	4.00	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
伝える工夫 ⑬	4.65	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
アクティブな機会 ⑭	3.80	4.0	演習問題による理解の深化を重視したため、アクティブな機会を設けるよう工夫が必要
自ら学ぶ態度 ⑮	4.25	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
全体評価 ⑯	4.35	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める

登録者数=41名：受験者数A=41名：単位取得者数B=37名：比率(B/A)=90%

総括（自由記述に対する対応含む）：

おおむね目標達成している。自主学习に対する指導が理解度の低下につながっている可能性があるため、この点に注意する必要がある。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年3月17日

授業対象学科：自然環境工学科

授業科目名：景観デザイン論

授業担当者（代表者）名：本田泰寛

所属：自然環境工学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.89	4.0	講義内容に応じたポイントを都度あげるよう努めていたが、よりわかりやすい提示の工夫が必要
内容の理解度 ⑤	3.56	4.0	資料読解など自主学习に相当する機会は設定されていたが、より自主的に学べるような誘導が必要
授業時間 ⑦	4.22	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
担当者の熱意 ⑧	4.56	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
板書・教材 ⑩	4.56	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
理解への配慮 ⑪	4.00	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
伝える工夫 ⑬	4.56	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
アクティブな機会 ⑭	3.33	4.0	当初グループによるアクティブラーニング的な要素を取り入れる予定であったが、次年度以降実施の予定
自ら学ぶ態度 ⑮	4.33	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める
全体評価 ⑯	4.67	4.0	目標に達しており、現状を維持するよう努める

登録者数=25名：受験者数A=25名：単位取得者数B=23名：比率(B/A)=92%

総括（自由記述に対する対応含む）：

おおむね目標達成している。地域の歴史的な課題、環境問題等を知る機会を設定し、資料読解や現場見学、外部講師の依頼など工夫をしたが、個別・具体の事例の理解という点でより丁寧な説明が必要であったかと考える。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年2月20日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：建築計画Ⅱ

授業担当者（代表者）名：山尾 和廣

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.38	4.0	
内容の理解度 ⑤	4.23	4.0	
授業時間 ⑦	4.85	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.69	4.0	
板書・教材 ⑩	4.92	4.0	
理解への配慮 ⑪	4.77	4.0	
伝える工夫 ⑬	4.54	4.0	
アクティブな機会 ⑭	4.15	4.0	リモート授業で双方向性に欠けたのが残念である。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.69	4.0	
全体評価 ⑯	4.38	4.0	

登録者数=34名：受験者数A=32名：単位取得者数B=29名：比率(B/A)=91%

総括（自由記述に対する対応含む）：

対面授業時の学生の授業態度は、熱意を感じる事が出来た。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年2月20日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：都市デザイン特論

授業担当者（代表者）名：山尾 和廣

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.53	4.0	リモート授業時の予習復習への配慮が必要と感じた
内容の理解度 ⑤	4.33	4.0	
授業時間 ⑦	4.73	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.80	4.0	
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	
理解への配慮 ⑪	4.87	4.0	
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	
アクティブな機会 ⑭	3.67	4.0	リモート授業での双方向性に欠けたのが残念である。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.53	4.0	
全体評価 ⑯	4.87	4.0	

登録者数=26 名：受験者数 A=25 名：単位取得者数 B=25 名：比率 (B/A) =100 %

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年2月20日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：建築設備

授業担当者（代表者）名：山尾 和廣

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.70	4.0	リモート授業時の予習復習への配慮が必要と感じた
内容の理解度 ⑤	4.0	4.0	
授業時間 ⑦	4.60	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	
板書・教材 ⑩	4.90	4.0	
理解への配慮 ⑪	4.65	4.0	
伝える工夫 ⑬	4.55	4.0	
アクティブな機会 ⑭	4.40	4.0	
自ら学ぶ態度 ⑮	4.45	4.0	
全体評価 ⑯	4.45	4.0	

登録者数=34名：受験者数A=34名：単位取得者数B=33名：比率(B/A)=97%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 25 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：建築計画 I

授業担当者（代表者）名：副田 和哉

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.52	4.0	他の講義（特に設計演習）との関連も意識させながら 自主学习について意識づけを行う。
内容の理解度 ⑤	3.79	4.0	おおむね理解できているようだが、 難易度の見直しと確認をしながら進めることとする。
授業時間 ⑦	4.52	4.0	現状を継続
担当者の熱意 ⑧	4.66	4.0	現状を継続
板書・教材 ⑩	4.83	4.0	現状を継続
理解への配慮 ⑪	4.55	4.0	現状を継続
伝える工夫 ⑬	4.66	4.0	現状を継続
アクティブな機会 ⑭	2.62	4.0	オンラインでの双方向的な機会は そのツールも含めて検討の必要がある。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.14	4.0	現状を継続
全体評価 ⑯	4.21	4.0	現状を継続

登録者数 = 40 名： 受験者数 A = 39 名： 単位取得者数 B = 39 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

建築計画は、他の講義の基礎となる科目でもある。

全体評価を見ると 4.21 と概ね良かったのではないかと思います。

自主学习を指導し、内容の理解度を深めながら、アクティブな機会を増やしていきたい。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年2月25日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：福祉環境計画

授業担当者（代表者）名：副田 和哉

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.32	4.0	他の講義（特に設計演習）との関連も意識させながら 自主学习について意識づけを行う。
内容の理解度 ⑤	3.71	4.0	おおむね理解できているようだが、 難易度の見直しと確認をしながら進めることとする。
授業時間 ⑦	4.65	4.0	現状を継続
担当者の熱意 ⑧	4.52	4.0	現状を継続
板書・教材 ⑩	4.90	4.0	現状を継続
理解への配慮 ⑪	4.23	4.0	現状を継続
伝える工夫 ⑬	4.48	4.0	現状を継続
アクティブな機会 ⑭	2.84	4.0	オンラインでの双方向的な機会は そのツールも含めて検討の必要がある。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.87	4.0	他の講義（特に設計演習）との関連も意識させながら 学ぶ態度について意識づけを行う。
全体評価 ⑯	4.29	4.0	現状を継続

登録者数 = 40名：受験者数 A = 40名：単位取得者数 B = 40名：比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

福祉環境計画は、これからの時代に必要な科目でもある。

全体評価を見ると4.29と概ね良かったのではないかと思います。

自主学习を指導し、内容の理解度を深めながら、アクティブな機会を増やし、自らが学ぶ態度を高める講義としたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 25 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：建築法規

授業担当者（代表者）名：副田 和哉

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.82	4.0	現状を継続
内容の理解度 ⑤	3.86	4.0	おおむね理解できているようだが、 難易度の見直しと確認をしながら進めることとする。
授業時間 ⑦	4.82	4.0	現状を継続
担当者の熱意 ⑧	4.82	4.0	現状を継続
板書・教材 ⑩	4.86	4.0	現状を継続
理解への配慮 ⑪	4.68	4.0	現状を継続
伝える工夫 ⑬	4.55	4.0	現状を継続
アクティブな機会 ⑭	4.36	4.0	現状を継続
自ら学ぶ態度 ⑮	4.91	4.0	現状を継続
全体評価 ⑯	4.36	4.0	現状を継続

登録者数 = 34 名： 受験者数 A = 32 名： 単位取得者数 B = 32 名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

建築法規は、建築の実務を行う上で必須の科目でもある。

全体評価を見ると 4.36 と概ね良かったのではないかと思います。

内容の理解度を深める講義としたい。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年2月25日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：環境工学 I

授業担当者（代表者）名：副田 和哉

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.25	4.0	現状を継続
内容の理解度 ⑤	3.80	4.0	おおむね理解できているようだが、 難易度の見直しと確認をしながら進めることとする。
授業時間 ⑦	4.50	4.0	現状を継続
担当者の熱意 ⑧	4.00	4.0	現状を継続
板書・教材 ⑩	4.35	4.0	現状を継続
理解への配慮 ⑪	4.50	4.0	現状を継続
伝える工夫 ⑬	4.40	4.0	現状を継続
アクティブな機会 ⑭	3.50	4.0	オンラインでの双方向的な機会は そのツールも含めて検討の必要がある。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.25	4.0	現状を継続
全体評価 ⑯	3.80	4.0	内容を見直しながら、必要に応じて改善する。

登録者数 = 38名： 受験者数 A = 32名： 単位取得者数 B = 32名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

環境工学は、建築学に必要な工学的アプローチを包含する科目でもある。

内容の理解度を深めながら、アクティブな機会を増やし、全体評価を高める講義としたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 22 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：建築施工

授業担当者（代表者）名：堀口讓司

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.91	4.0	
内容の理解度 ⑤	3.82	4.0	
授業時間 ⑦	4.45	4.0	
担当者の熱意 ⑧	4.27	4.0	
板書・教材 ⑩	4.64	4.0	
理解への配慮 ⑪	3.82	4.0	
伝える工夫 ⑬	4.36	4.0	
アクティブな機会 ⑭	3.0	4.0	やはり moodle では限界があった
自ら学ぶ態度 ⑮	3.55	4.0	同上
全体評価 ⑯	3.73	4.0	

登録者数 = 36 名： 受験者数 A = 36 名： 単位取得者数 B = 33 名： 比率 (B/A) = 91.6%

総括（自由記述に対する対応含む）：

新型コロナにより、授業が moodle→対面→moodle となったため学生にとってはやりやすかったと思う。
また私も施工は専門外であり、初めての大学授業ということもあり、戸惑うことも多かった。

その割には学生の評価がそれほど悪くなかったのは、対面授業の際は白板とパワーポイントと教科書を効果的に組み合わせて授業したからと思う。

2021 年度は施工の専門教員が赴任したため、私の経験を伝えて、よりよい授業にしていきたいと思う。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 22 日

授業対象学科：建築デザイン学科 I

授業科目名：工学デザイン基礎 I

授業担当者（代表者）名：堀口讓司

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.65	4.0	最初の Moodle 授業の影響が若干あるように思う。
内容の理解度 ⑤	4.18	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
授業時間 ⑦	4.35	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
担当者の熱意 ⑧	4.29	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
板書・教材 ⑩	4.53	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
理解への配慮 ⑪	4.12	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
伝える工夫 ⑬	3.88	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
アクティブな機会 ⑭	3.29	4.0	前半の moodle での授業ではアクティブな討論等の機会が少な かったと感じる。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.24	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
全体評価 ⑯	4.0	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。

登録者数 = 名： 受験者数 A = 名： 単位取得者数 B = 名： 比率 (B/A) = %

総括（自由記述に対する対応含む）：

始めが Moodle 授業であったため、コミュニケーションの伝達に多少南画あったように思う。2021 年度は対面でじっくり行いたい。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 22 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：インテリア建築都市デザイン演習Ⅱ

授業担当者（代表者）名：堀口讓司

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.87	4.0	個人のエスキスを丁寧に見たつもりであるが、エスキスを持って来ない学生にとっては、自主学习が弱かったと感じる。
内容の理解度 ⑤	3.67	4.0	同上
授業時間 ⑦	4.60	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
担当者の熱意 ⑧	3.80	4.0	かなりの熱意を持ったつもりである。
板書・教材 ⑩	3.80	4.0	
理解への配慮 ⑪	3.93	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
伝える工夫 ⑬	3.53	4.0	エスキース指導に時間を取りすぎたきらいがある。2021 年度はもう少し座学で住宅建築の基礎を学ばせるつもりである。
アクティブな機会 ⑭	3.80	4.0	
自ら学ぶ態度 ⑮	4.67	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
全体評価 ⑯	3.60	4.0	下記記述

登録者数 = 35 名： 受験者数 A = 35 名： 単位取得者数 B = 31 名： 比率 (B/A) = 88.5%

総括（自由記述に対する対応含む）：

建築設計の基本である住宅課題を前期一課題とし、じっくりエスキースを見てきたと自覚している。それが、かえって冗長性を生んだのではないかと思っている。2021 年度は前期 2 課題として、ある程度負荷をかけて教えようと思っている。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 3 月 22 日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：インテリア建築都市デザイン演習Ⅳ

授業担当者（代表者）名：堀口讓司

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.88	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
内容の理解度 ⑤	4.50	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
授業時間 ⑦	4.63	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
板書・教材 ⑩	4.88	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
理解への配慮 ⑪	4.75	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
伝える工夫 ⑬	4.63	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
アクティブな機会 ⑭	4.88	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.00	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。
全体評価 ⑯	4.50	4.0	特に問題がないため今後も継続して行う。

登録者数 = 28 名： 受験者数 A = 28 名： 単位取得者数 B = 25 名： 比率 (B/A) = 89.2%

総括（自由記述に対する対応含む）：

アンケート結果は全て 4.0 以上であったので、方向性は間違っていないと思う。

ただ前期一課題はやはり冗長になる感があるので、2021 年度は 2 課題にするつもりである。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 2 月 18 日

授業対象学科： 建築デザイン学科

授業科目名： 情報リテラシー

授業担当者（代表者）名： 李志炯

所属： 建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.07	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
内容の理解度 ⑤	3.73	4.0	授業中に学生とのコミュニケーション時間を増やし、内容の理解度を確認する。
授業時間 ⑦	4.53	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
担当者の熱意 ⑧	4.53	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
板書・教材 ⑩	4.93	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
理解への配慮 ⑪	4.40	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
伝える工夫 ⑬	4.47	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
アクティブな機会 ⑭	3.47	4.0	課題発表などを通して自分の意見を発表する時間を設ける。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.87	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
全体評価 ⑯	4.07	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。

登録者数 = 34 名： 受験者数 A = 34 名： 単位取得者数 B = 31 名： 比率 (B/A) = 91%

総括（自由記述に対する対応含む）：

授業の内容の理解度を上げるために工夫する。そして、課題を出し、自ら勉強する環境をつくる。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 2 月 18 日

授業対象学科： 建築デザイン学科

授業科目名： コンピューターリテラシー

授業担当者（代表者）名： 李志炯

所属： 建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.08	4.0	学生が興味を持てる課題を考える。
内容の理解度 ⑤	4.46	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
授業時間 ⑦	4.46	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
担当者の熱意 ⑧	4.46	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
板書・教材 ⑩	4.69	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
理解への配慮 ⑪	4.46	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
伝える工夫 ⑬	4.54	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
アクティブな機会 ⑭	3.08	4.0	課題発表などを通して自分の意見を発表する時間を設ける。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.08	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
全体評価 ⑯	4.46	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。

登録者数 = 40 名： 受験者数 A = 40 名： 単位取得者数 B = 39 名： 比率 (B/A) = 98%

総括（自由記述に対する対応含む）：

学生がより興味を持って授業に参加できる授業を考える。



授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和 3 年 2 月 18 日

授業対象学科： 建築デザイン学科

授業科目名： 建築 3DCG

授業担当者（代表者）名： 李志炯

所属： 建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.08	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
内容の理解度 ⑤	4.08	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
授業時間 ⑦	4.58	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
担当者の熱意 ⑧	4.50	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
板書・教材 ⑩	4.83	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
理解への配慮 ⑪	4.58	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
伝える工夫 ⑬	4.58	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
アクティブな機会 ⑭	3.58	4.0	作った作品を発表する時間を設ける。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.33	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
全体評価 ⑯	4.17	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。

登録者数 = 34 名： 受験者数 A = 34 名： 単位取得者数 B = 31 名： 比率 (B/A) = 91%

総括（自由記述に対する対応含む）：

学生が積極的に授業に参加したくなる授業の内容を考える。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年2月18日

授業対象学科：建築デザイン学科

授業科目名：基礎製図

授業担当者（代表者）名：李志炯

所属：建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.69	4.0	興味を持たせる課題を作成する。
内容の理解度 ⑤	3.92	4.0	教科書以外に参考できる資料の作成および参考文献の調査を行う。
授業時間 ⑦	4.69	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
担当者の熱意 ⑧	4.54	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
板書・教材 ⑩	4.46	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
理解への配慮 ⑪	4.23	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
伝える工夫 ⑬	4.15	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
アクティブな機会 ⑭	2.62	4.0	自分が作成した作品（課題）を用いて発表する時間を設ける。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.62	4.0	製図の楽しさ、面白さが分かるような授業の内容を考える。
全体評価 ⑯	3.92	4.0	より理解しやすい授業の内容を考える。

登録者数 = 39名： 受験者数 A = 39名： 単位取得者数 B = 39名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

学生の授業に対する理解度を高めるために授業の内容を工夫する。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日： 令和3年2月18日

授業対象学科： 建築デザイン学科

授業科目名： 建築工学基礎概論

授業担当者（代表者）名： 李志炯

所属： 建築デザイン学科

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	2.38	4.0	文献調査などの課題を出す。
内容の理解度 ⑤	4.00	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
授業時間 ⑦	4.54	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
担当者の熱意 ⑧	4.77	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
板書・教材 ⑩	4.69	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
理解への配慮 ⑪	4.46	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
伝える工夫 ⑬	4.38	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。
アクティブな機会 ⑭	2.77	4.0	課題発表の時間を設け、授業に積極的に参加できるようにする。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.38	4.0	建築の楽しさが伝わるように授業の内容を工夫する。
全体評価 ⑯	4.15	4.0	特に問題はなかったため、これまでの通りにする。

登録者数 = 39名： 受験者数 A = 39名： 単位取得者数 B = 39名： 比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

楽しい授業になるようにその内容を工夫する。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科FD委員宛にお送りください。（今年度のFD委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年2月19日

授業対象学科：1学年（全学科）

授業科目名：基礎数学 Cクラス

授業担当者（代表者）名：竹下俊一 所属：共通教育センター

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.40	4.0	毎回、指導・指示を受けていたが、70.0%であったが、クラス全員に終始徹底できるように工夫が必要。
内容の理解度 ⑤	4.70	4.0	完璧に理解しているが80.0%、ある程度理解しているが10.0%であるが、工夫が必要と思う。
授業時間 ⑦	4.50	4.0	授業時間の活用については適切に行っていると評価してもらっていると思う。
担当者の熱意 ⑧	4.40	4.0	熱意についてもある程度の評価は得られていると思う。
板書・教材 ⑩	4.60	4.0	教材は十分であったが90.0%だが、もっと内容を伝える工夫が必要と思う。
理解への配慮 ⑪	4.20	4.0	理解度に十分に配慮が、70.0%であるが、まだまだ全員に理解をさせる工夫が必要。
伝える工夫 ⑬	4.60	4.0	よく工夫されているが、90.0%であったが、理解度の高い工夫が必要と感じる。
アクティブな機会 ⑭	4.30	4.0	毎回他の人と討論するが、60.0%であったが、もっとクラス全体で取り組む講義工夫が必要である
自ら学ぶ態度 ⑮	4.00	4.0	積極的に学習する態度が、50.0%、自ら考えた機会が多いが、30.0%であるが、もっと工夫が必要である。
全体評価 ⑯	4.40	4.0	「大変満足」が70.0%「満足」が20.0%だが、今後もっと工夫を進める必要がある。

登録者数=57名： 受験者数A=50名： 単位取得者数B=50名： 比率(B/A)=100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

成績の評価基準：シラバスに従い、試験（70%）、ノート取得状況&受講態度（30%）で評価した。
 学習目標の達成：合格者が100%であったが、欠席オーバーの学生もおり、また欠席の多い学生も若干いるので、講義を通じて生活面の指導も行っていきたい。

復習や小テストを増やしてもっと理解を深めさせたい。

その他：自由記述について、特に要望等はありませんでした。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 17 日

授業対象学科：工学部教職課程

授業科目名：教育心理学

授業担当者（代表者）名：永田正明 所属：共通教育

評価項目 項目番号	アンケートの評 点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導②	4.2	4.0	
内容の理解度 ⑤	3.8	4.0	教員採用試験問題に「教育心理学」もあるので、学生が理解に苦しむ分野の授業もやらなければならない、たぶんそういった採用試験過去問題への取組み方がわからないと思われる。2 年生なので今後演習科目でこういった点は解消できると思われる。
授業時間⑦	4.4	4.0	
担当者の熱意⑧	4.6	4.0	
板書・教材⑩	5.0	4.0	
理解への配慮⑪	4.4	4.0	
伝える工夫⑬	4.4	4.0	
アクティブな機会 ⑭	4.0	4.0	中学・高校での授業科目にはない科目のため、テキストに基づいて知識を増やさなければならず、今後もアクティブな機会を持つのはできないと思われる。
自ら学ぶ態度⑮	4.6	4.0	
全体評価⑯	4.2	4.0	

登録者数＝ 名： 受験者数 A＝9 名： 単位取得者数 B＝9 名： 比率 (B/A)＝100%

総括（自由記述に対する対応含む）：

コロナの影響でシラバスの予定から半分程度しか進められなかった。遠隔授業のできる講義室が 1 号館に不足しており、次年度も続くようであれば黒板やスクリーンまで入る遠隔カメラの設置が望まれる。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 17 日

授業対象学科：工学部教職課程

授業科目名：教育相談

授業担当者（代表者）名：永田正明 所属：共通教育

評価項目 項目番号	アンケートの評 点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導②	4.2	4.0	
内容の理解度⑤	4.2	4.0	
授業時間⑦	4.2	4.0	
担当者の熱意⑧	4.4	4.0	
板書・教材⑩	4.6	4.0	
理解への配慮⑪	4.4	4.0	
伝える工夫⑬	4.6	4.0	
アクティブな機会⑭	3.8	4.0	次年度は「教育相談」のロールプレイングを実践してみたい。
自ら学ぶ態度⑮	4.2	4.0	
全体評価⑯	4.2	4.0	
登録者数＝ 名： 受験者数 A＝8 名： 単位取得者数 B＝8 名： 比率 (B/A)＝100%			
総括（自由記述に対する対応含む）： 本「教育相談」についての授業形態は、今後も効率よく学習できるような指導計画を考えなければならぬと思う。他大学のシラバス等の検討も考えたい。			

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 23 日

授業対象学科：1 年 TE

授業科目名：コンピュータリテラシー

授業担当者（代表者）名：福永 知哉 所属：共通教育センター

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.77	4.0	当日、実施する課題を 1 週間前に掲示。講義に積極的な学生は前もって講義内の課題を解いている学生もいた。この形式は継続したい。
内容の理解度 ⑤	4.11	4.0	理解が出来ていない、講義で戸惑った学生は、TA が別の部屋（ブレイクアウトルーム）に分けることで理解度を保った。
授業時間⑦	4.45	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
担当者の熱意 ⑧	4.45	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
板書・教材⑩	4.73	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
理解への配慮 ⑪	4.50	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
伝える工夫⑬	4.57	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
アクティブな機会 ⑭	3.00	4.0	課題は moodle を通して配布され、Zoom で講義しながら、各自の PC より理解しながら解く。という形式のため、常にアクティブな状態である。が、学生同士で話し合うという観点から考えるとともくもくと解いていくため、評価が低いのかもかもしれない。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.18	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
全体評価⑯	4.36	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。

登録者数 = 69 名：受験者数 A = 57 名：単位取得者数 B = 57 名：比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：今年は、Zoom 内にて講義を実施した。コンピュータリテラシーは基本的には microsoftoffice(word excel powerpoint)の扱いを修得する科目であるが、TE の学生は全員 PC を持っているが、ソフトのバージョンが異なっていたり、互換性のあるソフトで代用したりしている部分があったため、多少の混乱があった。また、TE は受講生も多く質問も Zoom のチャットを用いて多数あったため、非常に困難であった。しかし、TA2 名がおり、ブレイクアウトルームに分け、個別に対応することで大きな困難を避けることが出来た。大学から統一した見解が出せると非常に良いと思う。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 23 日

授業対象学科：2 年全

授業科目名：情報とコンピュータ（含実習）

授業担当者（代表者）名：福永 知哉

所属：共通教育センター

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	5.0	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
内容の理解度 ⑤	4.67	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
授業時間 ⑦	4.83	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
担当者の熱意 ⑧	4.83	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
板書・教材 ⑩	5.0	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
理解への配慮 ⑪	4.83	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
伝える工夫 ⑬	5.0	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
アクティブな機会 ⑭	5.0	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
自ら学ぶ態度 ⑮	5.0	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
全体評価 ⑯	4.83	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。

登録者数 = 8 名：受験者数 A = 8 名：単位取得者数 B = 8 名：比率 (B/A) = 100%

総括（自由記述に対する対応含む）：受講生に講義毎 1 名ずつ先生になってもらい、テーマに沿って実際に講義を実施してもらいながら、情報とコンピュータを学んでもらう形式で実施している。今年度は、新型コロナウイルス感染症ということで、上記を Zoom を用いて実施してもらった。そうすることで昨年度と同じように授業準備もでき、且つ PC 操作やコンピュータについてより深く学ぶことができていると思う。この講義自体は問題ないが、Zoom 上、生徒役の受講生が本当に熱心に聞いているのか、また先生役が生徒役の表情を見ながら講義を行うことが通常と異なる。この課題をクリアできれば、講義理解、自主性等も磨かれ良い講義になるように考える。

授業改善計画書（令和2年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は3月19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和3年 2月 23日

授業対象学科：3年全

授業科目名：就業力演習

授業担当者（代表者）名：福永 知哉

所属：共通教育センター

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	4.03	4.0	就職に直結しているため、1次試験(筆記)に関する問題を moodle にて課題をアップすると一人一人が真面目に解いてくれるため、高評価となったのかもしれない。
内容の理解度 ⑤	4.27	4.0	遠隔授業内で使用した、パワーポイントの資料を、PDF 化し、moodle にアップロードすることで、理解不足を補った。
授業時間⑦	4.50	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
担当者の熱意 ⑧	4.52	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
板書・教材⑩	4.70	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
理解への配慮 ⑪	4.36	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
伝える工夫⑬	4.44	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
アクティブな機会 ⑭	3.79	4.0	本年度は Zoom にて実施したため、就職に関する作法や、履歴書の書き方、自己アピールする機会がなかったため、評価が下がったと思われる。
自ら学ぶ態度 ⑮	4.39	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
全体評価⑯	4.25	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。

登録者数 = 151 名：受験者数 A = 151 名：単位取得者数 B = 149 名：比率 (B/A) = 98%

総括（自由記述に対する対応含む）：今年は、新型コロナウイルス感染症対策の為、Zoom を用いて講義を実施した。座学については、事前に問題を与え、当日パワーポイントにて解説をする形式で実施。作法や、自己アピール、就職の現状等は外部の先生（リクナビ・マイナビ・MBC 開発）に Zoom 上で着て頂き、学生はこれを視聴する形となった。3年生は成人しており、且つ就職の話の為、非常に熱心に受講してくれるため評価はいつも一定以上となる。今後の課題については、遠隔授業において、チャットや画面越しに質問をしたり、回答してもらったりしたが、もっと工夫することで、アクティブな機会⑭の評価をあげることを検討したい。

授業改善計画書（令和 2 年度 前期 講義）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載してください。
3. 作成した計画書は 3 月 19（金）までに各学科 FD 委員宛にお送りください。（今年度の FD 委員：航空（古川）、情報電子（當金）、機械（大脇）、自然（田中）、建築（堀口）、共通（永田））

記入年月日：令和 3 年 2 月 23 日

授業対象学科：1 年全

授業科目名：基礎物理 C

授業担当者（代表者）名：福永 知哉

所属：共通教育センター

評価項目 項目番号	アンケートの評点		現時点での自己評価と改善の方策
	今回	目標	
自主学习指導 ②	3.95	4.0	講義内容をノートに写し、その内容から小テストを作成することで、自主学习指導を行っている。一定の評価を得ているので、継続していきたい。
内容の理解度 ⑤	3.75	4.0	遠隔授業内で使用した、パワーポイントの資料を、PDF 化し、moodle にアップロードすることで、理解不足を補った。
授業時間⑦	4.55	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
担当者の熱意 ⑧	4.35	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
板書・教材⑩	4.65	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
理解への配慮 ⑪	4.00	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
伝える工夫⑬	4.50	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。
アクティブな機会 ⑭	2.85	4.0	C クラスの学生は勉強の仕方、特に理系科目において積極的に行うことができていない。そのため、宿題を毎回提出するようにしている。提出率は良好で 8 割は毎回提出してくれている。
自ら学ぶ態度 ⑮	3.75	4.0	“ノートをとる”ということの大事さを何度も繰り返し伝えたためこの結果につながったように思う。今後も指導していきたい。
全体評価⑯	4.30	4.0	非常に高評価であったため、今後も継続していきたい。

登録者数 = 59 名：受験者数 A = 54 名：単位取得者数 B = 40 名：比率 (B/A) = 74%

総括（自由記述に対する対応含む）：物理 C クラスの受講生は、物理が苦手または未履修の学生が 7 割以上を示し、また留学生も多い。そのため、基礎を伝えることに重点をおかなければならず、理解の確認の仕方が、口頭ではなく、宿題（小テスト）という形になってしまう。そのため、アクティブな機会⑭については評価が極端に低い。その他については一定の評価を頂けたので安心している。今年度は、Zoom を用いた講義となり特に、本当に講義を聞いているのかどうか良く分からない状況であったが、テストを見る限りでは、例年通りの単位修得状況である。課題としては、留学生の出席率、単位修得率を上げる方法を考えなければならない。特に、今回は大学に来ることが出来る、留学生は友達とふれあう機会がないため心のケアも大事だと痛感している。